

夢中を育む。

Aeon
Fantasy

株式会社イオンファンタジー
統合報告書
2023

AEON

木を植えています
私たちはイオンです

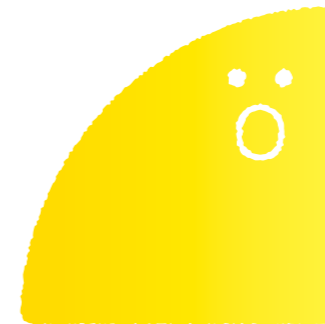
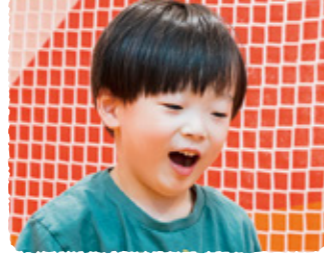
こどもたちの夢中を育み、 “えがお”あふれる世界をつくる。

こどもと向き合うことは、未来の大人と向き合うこと。
すなわち、次の社会をつくることです。

だから私たちは、効率化や最適化だけではたどり着けない
こどもたちの“えがお”に、
誰よりも真剣に取り組みたいと思うのです。

私たちの夢中が、こどもたちの夢中を育む。
“えがお”あふれる世界をつくるために。

イオンファンタジーは、挑戦し続けます。



イオンファンタジーのパーパス ———— 01
社長メッセージ ———— 03

01 価値創造ストーリー

価値創造モデル ———— 09
価値創造のあゆみ ———— 11
事業展開 ———— 13
価値を生み出す強み ———— 15

02 価値創造戦略

中期経営計画 ———— 17
次なる成長に向けて ———— 19
特集：こどもの成長を育む
プレイグラウンド事業 ———— 21
財務担当役員メッセージ ———— 25

03 サステナビリティ経営

サステナビリティマネジメント ———— 27
社会 ———— 29
環境 ———— 34
ガバナンス ———— 37
役員一覧 ———— 43
社外取締役メッセージ ———— 45

04 企業・財務非財務データ

財務・非財務ハイライト ———— 47
連結経営指標等10年間サマリー ———— 49
会社概要・株式情報 ———— 51

編集方針

当社では、株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションツールとして「統合報告書」を発行しています。2年目となる本年は、2021年度に制定したパーパスに基づく中長期的な価値創造ストーリーを、事業展開や強み、次の成長に向けた方向性や取り組み、ESG活動報告を中心にご紹介しています。

対象期間

2022年度(2022年3月1日から2023年2月28日)
一部、当該期間以前もしくは以後の活動も報告内容に含まれます。

対象範囲

株式会社イオンファンタジー及びグループ各社

参考ガイドライン

- IFRS財団「国際統合報告フレームワーク」
- 経済産業省「価値協創ガイドンス」



“こどもたちのえがお”を
生み出し続ける
会社であり続けるために。

次なる成長に向けた私たちの
チャレンジは、もう始まっています。

株式会社イオンファンタジー
代表取締役社長
藤原 徳也

国内・アセアンを中心に
コロナ禍からの回復がより鮮明に

2022年度における当社の連結業績は、売上高が前期比20.8%増の726億90百万円、営業利益は前期増減額42億57百万円改善し、8億49百万円の黒字まで戻すことができました。下期から新型コロナウイルス感染症が収束に向かい、国内・海外事業ともに回復基調で推移できているからだと考えています。

国内事業では、最大商戦である夏休みに新型コロナウイルスの感染者が拡大した影響を受け、売上高が落ち込みました。年間の計画をカバーするには至りませんでした。下期単独の業績は2019年度を上回る水準まで回復しました。コロナ禍でも好調を維持してきたカプセルイトとプライズの専門店の出店拡大が着実に成果を出していることに加え、長く低迷していた時間制遊具やメダルの部門売上が回復基調となったことは、次年度に向けた

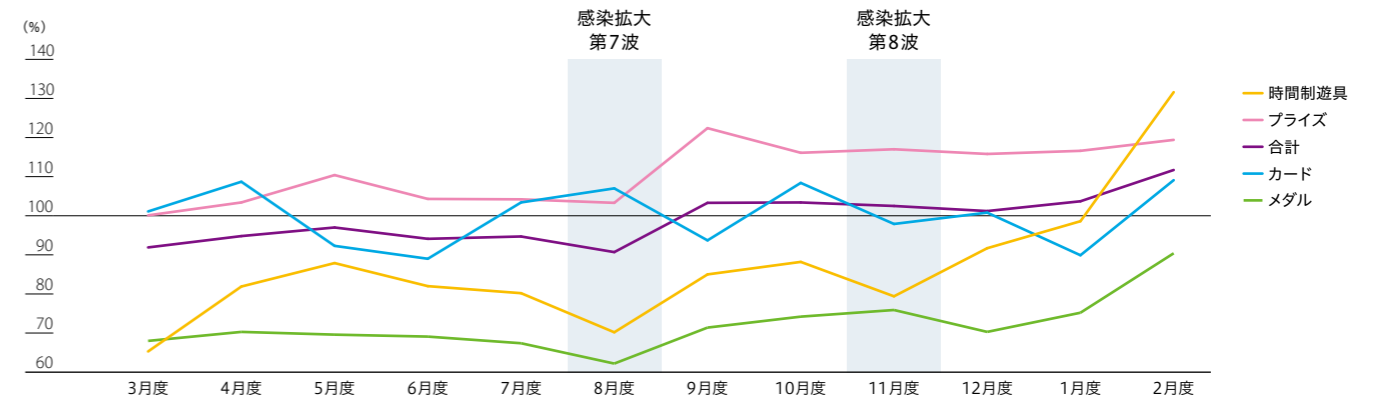
好材料と評価しています。
海外事業は、新型コロナウイルス感染症の影響が各国の明暗を分けました。中国では、12月に長く続いたゼロコロナ政策が解除され全店営業再開しましたが、直後に感染が急拡大し、年間を通じて厳しい状況が続きました。一方で、期初から新型コロナウイルス感染症の拡大が収束していたアセアンでは、想定以上にお客さまにご来店いただき、売上・利益ともに過去最高を記録しました。アセアンの好調の背景には、2つのポジティブな要因があります。

ひとつは、各国共通で取り組んできたことの成果が実を結んでいることです。もともとアセアンではアミューズメント施設への法的規制が厳しい国があり、運営が困難であるなどの事情から、時間制施設である「プレイグラウンド」を主要業態として展開しています。そのため、こどもたちと一緒に遊び、楽しませる店舗スタッフの能力が非常に重要となります。コロナ禍で営業休止を余儀なくさ

2023年2月期 売上高・営業利益の四半期別推移 (単位:百万円、%)

	売上高			営業利益		
	当期	前期比増減率	2019年比増減率	当期	前期比増減額	2019年比増減額
第1四半期	16,161	21.3	△10.1	△325	1,434	△635
第2四半期	18,918	27.2	△9.8	622	1,441	△1,920
第3四半期	17,698	22.6	5.8	△431	919	△67
第4四半期	19,912	13.5	11.9	983	461	260
通期	72,690	20.8		849	4,257	

主要部門売上高(既存店)2019年比推移



れていた期間にも、セミナーやイベント教育を通じて店舗スタッフの育成に注力してきたことが功を奏し、営業再開と同時に入念に準備してきたスタッフが子どもたちをお迎えすることができました。また、本社の販管費や店舗の無理・無駄の削減に取り組み、効率的でスリムな経営体質ができました。これらがアセアン事業の売上・利益の伸長を下支えする要因につながったと考えています。

もうひとつは、マレーシアではアミューズメント、フィリピンではプレイグラウンドが、それぞれ業界シェアNo.1の座を得たことが上げられます。この2カ国では、効果的な遊戯機械の導入や他社と比べて圧倒的にクオリティの高いサービスと遊具を提供することで、一気に競合店との差別化を図ることに成功しました。特にフィリピンにおいては、「室内大型プレイグラウンド」という分野を当社がパイオニアとなり、拡大したという側面もあります。その結果、現在ではディベロッパーからの期待と信頼を得て、最初に出店を要請されるポジションを獲得しています。

2023年度については、国内・アセアンでさらなる市場回復を見込んでいますが、中国においてはコロナ禍以前の水準に戻るのには2024年度以降と想定しており、売上高862億円(前期比18.6%増)、営業利益40億円(前期差31億50百万円)を予想しています。また、国内においてはカプセルトイ・プライズの各専門店業態の拡大を継続するとともに、子育てニーズを捉えた業態の進化に取り組みます。海外においては、商圈やディベロッパーの規模に応じた柔軟な出店を推進することで、確実に需要を取り込んでいきたいと考えています。

コロナ禍を経験して見えてきた 当社の課題や存在意義(パーパス)

コロナ禍の3年間は、当社のように店舗を構える業種の企業にとって非常に厳しい経営環境を強いられてきましたが、一方で、そうした現実と向き合う中で見えてきたこと、得られたことも多かったと感じています。

例えば、従来の事業方針や社内基準・ルールでは変化の激しい事業環境やお客さまのニーズと向き合っていけ

ない点が浮き彫りとなったおかげで、もう一度、創業の原点に立ち返り、経営陣や次代を担う従業員とともに当社の存在意義を見つめ直す機会につながられたことです。

こうして当社のパーパス(→P01)を策定し、もう一度、当社の経営の中心に「子どもたちの“えがお”」を位置付け直すとともに、「こどもと向き合うことは、未来の大人と向き合うこと。すなわち、次の社会をつくること」という“未来の社会に対する私たちの責任”にまで昇華できたことは、今後の持続的な成長を果たしていくうえで必ず力になってくれると確信しています。

また、コロナ禍で子どもたちが店舗に遊びに来てくれる機会が減り、当社の従業員も働く意義を見出せなかった時期が続いていたので、“このパーパスの実現のために頑張ろう!”と従業員の気持ちももう一度1つになれたこと、みんなで助け合いながら苦しい時期を乗り越えられたことは、タイミング的にも本当によかったと感じています。

加えて、コロナ禍で得られた気づきとして、今後の事業展開の方向性についても明確になりました。2021年度を初年度する現中期経営計画の中で、私たちは「エデュテイメント企業」を標榜し、そのための新しい業態開発など3年間にわたり仮説・実験・検証を繰り返してきました。失敗も数多くありましたが、鮮明に見えてきたのは「プレイグラウンド」を求めめるお客さまが圧倒的に多いということです。先に述べたアセアンの好調に見るまでもなく、国内・中国においても「プレイグラウンド」の売上回復の早さが際立っています。新型コロナウイルス感染症が収束に向かう中で、子どもたちが何に楽しさを感じているのか——その答えのひとつは「プレイグラウンド」の回復の早さが物語っています。

2023年3月には、東京ソラマチ®に新業態のプレイグラウンド「ちきゅうのにわ」(→P21)をオープンしました。お客さまの数は当初計画以上のペースで推移しています。“遊びながら地球のおもしろさと大切さを学べる広場”というコンセプトもさることながら、「こどもたちと従業員と一緒に楽しみながら遊ぶ」というアセアンスタイルのよさを逆輸入し、スタッフ教育に力を入れています。店舗スタッフ数も増員しており、それが子どもたちの楽しさにつ



東京ソラマチ®にオープンした新業態プレイグラウンド「ちきゅうのにわ」

ながってきたことで、広くお客さまの支持を得ています。

いま、遊びに対するお客さまのニーズは多様化しています。かつての“買い物ついでのニーズ”ではなく、長時間楽しみたい、短時間楽しみたい、プライズで遊びたい、メダルで遊びたいなど、遊びたい目的を持ったお客さまが増加しています。こうした中で、私たちはその目的に値する、そして子どもたちが夢中になれる“あそびの価値”を「プレイグラウンド」を中心にしっかりつくり上げて、従業員とともにパーパスの実現を目指していきたいと考えています。

「こころ・あたま・からだ」の成長を育む 企業グループとなるために

パーパスの実現に向けて、私たちが目指しているのは『子どもたちの“たのしい”を創造し、「こころ・あたま・か

らだ」の成長を育む企業になる』ことです。

こどもは、遊びの中から色々なことを学んでいます。つまり「遊び」と「学び」は個別に存在するのではないのです。例えば、遊びの中で他人との交流を通じて社会的なルールや協調性、自立心などを学び、こころを育てていきます。あたまやからだの成長も同様です。こうした遊びを通じたこどもの成長に正面から向き合い、イオンファンタジーだからこそ提供できる価値は何かを見つめ直していくことが「エデュテイメント企業」を具現化していくうえでも非常に重要だと考えています。

こうした考えを巡らせていくと、当社の事業構成も見直していく必要があることがわかります。現状は遊戯機械で構成される「アミューズメント」事業が国内売上の8割、中国売上の7割を占めており、主要業態は「モーリーファンタジー」です。もちろん今後も業態として進化させていきますし、コロナ禍に拡大してきたカプセルトイやブ

ライズの専門店についても、お客さまのニーズに応じて拡大を図っていきます。しかし、こどもたちの「こころ・あたま・からだ」の成長を育む企業になるには、これらだけではどうしても限界があります。そこでプレイグラウンド事業が提供している付加価値——つまり、店内の遊具を使ってこどもたちとスタッフが交流しながら遊びを創造していくという、こどもの成長に寄与する価値の大きさに着目し、その価値を高めていくことに力を注いでいきたいと考えています。そして、これを次なる成長エンジンにし、もう一段上の価値創出に挑戦していきます。

プレイグラウンド事業は、現状は国内では「スキッズガーデン」、海外では「キッズーナ」が主力業態ですが、先に述べた「ちきゅうのにわ」に続く業態開発も視野に入れながら国内・中国においても中長期的にプレイグラウンド事業の構成比を高めていきます。また、すでにプレイグラウンド事業が主力となっているアセアンにおいても一層の事業強化を図っていきます(→P19)。

もちろん、こうした方向性を具現化していくにはクリアすべき課題もあります。アセアン事業のように、店舗スタッフがこどもたちと一緒に楽しみながら遊ぶ「プレイグラウンド」を実現するためには、店舗スタッフを数多く配置する必要があり、国内・中国においては採算性の問題がついてまわります。しかし、国内で運営している「ちきゅうのにわ」では店舗スタッフを多く配置し、サービスを充実した結果、従来の「プレイグラウンド」では設定し得なかった高価格帯の顧客単価でも満足していただいております。提供価値と価格をうまくバランスさせることに成功しています。なお、これらは若手リーダーの発案をきっかけにしたもので、従来では採算性を重視して諦めていたかもしれないところを、“こどもたちのえがお”起点で発想し、新しい価値創出に取り組んできた結果です。

新たな価値創出には課題はつきものですが、こうしたチャレンジを一つひとつ積み上げていくことで、進むべき道は必ずと拓けていくものと考えています。次年度に公表予定である新中期経営計画では、こうした事業の方向性と課題をより明確にし、パーパス実現に向けた成長戦略をしっかりと練り上げていきます。

サステナビリティ経営を実践し、 全社一体で企業価値を高めていく

当社は、2022年に「サステナビリティ方針」を定めるとともに、取締役会の諮問機関として社外有識者を加えたサステナビリティ委員会を発足し、サステナビリティ経営を本格始動しました(→P27)。また、この委員会の下部組織には、イオンファンタジーの6つのマテリアリティ(重要課題)に関する部署横断チーム「サステナビリティ倶楽部」を設置し、定量・定性目標のもと、活動をスタートしています。

マテリアリティの中で私が特に重視しているのは「従業員がいきいきと働ける組織づくり」です。こどもたちの“えがお”をつくることを存在意義とする会社として、従業員が幸せや楽しさを感じて働き、笑顔でこどもたちを迎えられる環境をつくることは何より大切であり、パーパス実現の鍵を握ると考えています。そこで2022年9月、パーパスを実践していくうえでの行動指針「FANTASY WAY」を定めました。これは従業員一人ひとりが、自ら考え、こどもたちの笑顔のためにチャレンジできることを目的としており、日々の業務の会話の中でも自然と話題に上がるよう呼びかけの形にしました。経営陣が率先して発信することで社内浸透を進めています。今後、「FANTASY WAY」を実践している従業員が評価されるよう人事評価の整備を進めているなど、組織全体でパーパスを実践できる環境づくりに注力していきます。



FANTASY WAY

また、人材への積極的な投資もしています。人材育成面では役職別社内セミナーの充実やスキルアップに必要

な資格取得を会社が全額支援する制度を取り入れております。また、従業員の子育て支援にも力を入れており、2030年までの中期目標「国内外女性課長職以上比率50%以上」に対して2022年度は46%、同じく中期目標「男性育児休暇取得率100%」については、2022年度は達成しています。加えて、2017年から継続している「一時保育利用補助制度^{*1}」についてはさらに条件を緩和しているほか、2022年度は新たに「ハグくみ休暇制度^{*2}」を導入開始するなど、子育てをしている従業員に対する手厚いサポートをしています。

サステナビリティ経営の取り組みについて、社会からの要請度が高い「気候変動への対応」については、店内の遊戯機械のLED化を通じて着実にCO₂排出量削減を進めていますが、今後は1つステージを上げてScope3での削減も視野に入れていきます。サステナビリティ委員会においても社外有識者からステージアップするための助言をいただいております。業界のリーディングカンパニーとして先陣を切ってサプライチェーン全体でのCO₂排出量削減に取り組むことを検討していきたいと思っております。

社内プロジェクトとして発足した「サステナビリティ倶楽部」の活動はスタートして2年目となります。具体的な成果はまだこれからですが、今年度はメンバー全員が活動に賛同し、自ら挙手したメンバーばかりとなりました。着実に会社全体にサステナビリティへの関心・理解が浸透し始めていると感じます。引き続き、経営陣・従業員と一緒に経営し、社会に貢献することで企業価値を高め、成長していける会社にしていきたいと考えています。

^{*1} こどもが病気や病後回復期などで保育園に預けられない時に利用した一時保育費用を補助。2022年より日・祝日の利用も可能とし、さらに条件を緩和

^{*2} 配偶者が出産した際に、出産より1年以内に連続5日間を上限に取得できる年間付与日数外の特別有休休暇

世界中のこどもを笑顔にするために 持続的な成長を遂げる企業となる

コロナ禍で傷んだ業績が回復の兆しを見せる中、2024年度春以降には次なる成長を期した新しい中期経



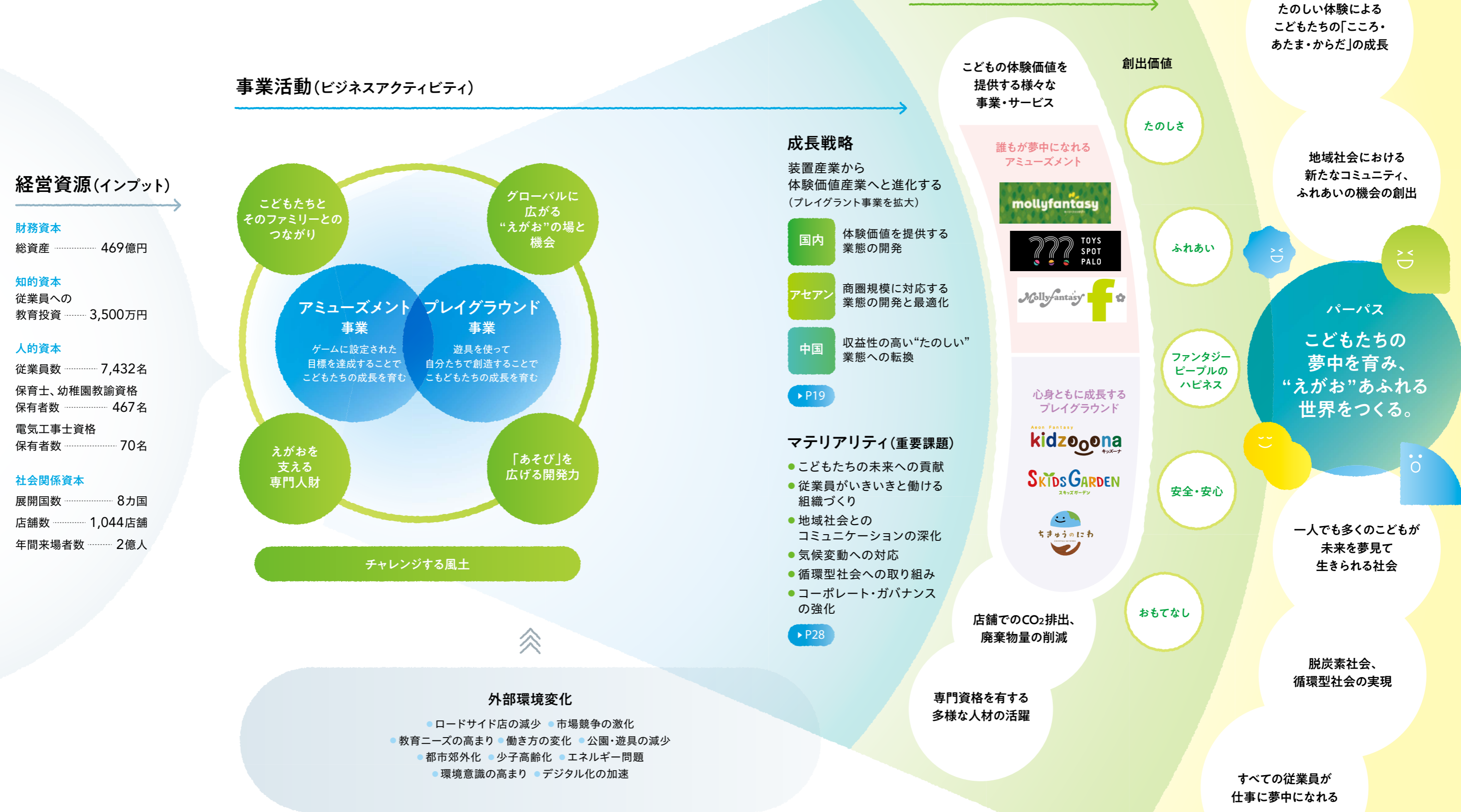
営計画を公表する予定です。この数年、自社の存在意義を棚卸し、お客さまのニーズと向き合う試行錯誤の中で見いだした“新生イオンファンタジー”の姿に確信を持っていますし、何よりも会社をよりよくするために前進する経営幹部や従業員の存在が今後も大きな力になっていくものと信じています。

経営者として私が描いているのは、30年後も50年後も、世界のこどもたちを笑顔にし、企業としても成長を続けているイオンファンタジーの姿です。そして、すべての従業員がご両親やこども、友人など周囲から「よい会社に勤めているね」「社会に貢献している会社に勤めていて幸せだね」と言われる会社にする予定です。

ステークホルダーの皆さまには、これからのイオンファンタジーにご期待いただきたいと存じます。引き続き、ご理解とご支援をよろしく申し上げます。

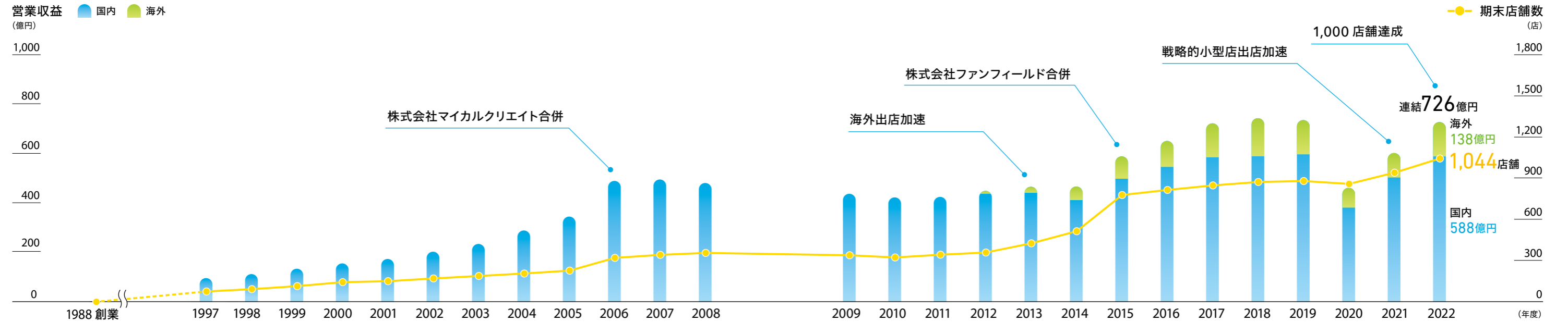
価値創造モデル

イオンファンタジーは、これまで培った5つの強みのもと、2つの主力事業を通じて子どもたちの「えがお」に貢献しています。さらなる事業成長に向け、「あそびの体験」の創出へ注力するとともに、6つのマテリアリティ(重要課題)に取り組み、多様な価値を社会に提供していくことで、「えがお」あふれる世界の実現を目指します。



価値創造のあゆみ

イオンファンタジーは、1988年の創業以来、子どもたちとそのファミリーに向き合い、世界各地で様々な事業・業態を展開してきました。私たちが変わらず大切にするのは、「子どもたちのえがお」です。これからも、「あそび」を通じて子どもたちの成長を支え、新たな価値を提供していきます。



創業期 (1988-2005) | **成長期** (2006-2014) | **変革期** (2015-2022)

「室内ゆうえんち」という新たな価値の創造

1988年に「明るく安全な室内ゆうえんち」をコンセプトとしたファミリー向けアミューズメント施設をオープン。若者向けの娯楽施設という従来のアミューズメントのイメージを一新し、家族にたのしさとふれあいを提供しました。2001年には現在の主力業態である『モーリーファンタジー』を初出店し、2005年には全国200店舗を達成しました。



第1号店のメリーゴーラウンド



2007年のモーリーファンタジー店舗

二度の合併と海外進出 アミューズメント業界首位へ

2006年、2015年に行った企業合併により事業規模が拡大。売上・店舗数ともに国内業界首位となりました。また、2007年の中国進出を契機として、プレイランド事業を中心に海外各国への出店を進め、10年間で6カ国へ展開しました。特に、アセアンでは安全で清潔な屋内のあそび場への需要が高く、当社の施設は高い評価を受けています。



中国の1号店



FANPEKKA

「子どもの成長」を軸とした新たな価値の提供 「あそびを通じたまなび」への挑戦

創造性や社会性を育むプレイグラウンド事業はもちろん、アミューズメント事業においてもオリジナルマシンを開発するなど、「あそびながらまなぶ」というエデュテイメントの概念に着目した事業・業態を拡大しました。また、温浴事業やアウトドア事業にも参入するなど、あそびや家族のふれあいを軸として事業の多角化にも取り組みました。



キッズーナ1号店



新業態のエデュテイメント事業

「子どもの成長」という新たな価値へ

コロナ禍で業界全体が大きな打撃を受けましたが、国内のプライズ・カプセルトイ業態は好調を維持、コロナ収束後はアセアン各国で売上が増加するなど、あそびへの需要は不変でした。私たちは子どもと家族にとっての「あそび」の価値を再認識し、パーパスとして昇華させました。これまで培った強みを生かし、「成長」という新たな価値の提供を目指します。



ちきゅうのにわ



海外プレイグラウンド

会社の沿革

1988年 ジャスコ株式会社SC部アミューズメント事業課創立 第1号店となる「ファンタジーパーク大館店」を開店	1997年 株式会社イオンファンタジー設立	1998年 社是・企業理念の制定	2002年 JASDAQ市場上場	2003年 東証第二部上場	2005年 東証第一部上場	2006年 株式会社マイカルクリエイトと合併	2007年 イオンファンタジー北京(現イオンファンタジー中国)設立	2011年 イオンファンタジーマレーシア設立	2012年 イオンファンタジータイランド設立	2014年 イオンファンタジーインドネシア及びイオンファンタジーフィリピン設立	2015年 株式会社ファンフィールドと合併	2017年 イオンファンタジーベトナム設立	2022年 東証プライム市場を選択 世界で1,000店舗を達成
--	---------------------------------	----------------------------	----------------------------	-------------------------	-------------------------	----------------------------------	---	----------------------------------	----------------------------------	---	---------------------------------	---------------------------------	--

事業展開

イオンファンタジーは、アミューズメント事業とプレイグラウンド事業を中心に、日本・アジア各地で様々な施設とサービスを展開しています。出店する地域や商業施設、ターゲットに合わせて業態を最適化させることで、より多くの子どもたちの“えがお”に貢献しています。

2023年2月期売上高

726億90百万円

2023年2月期営業利益

8億49百万円

8カ国 1,044店舗に展開

●国内事業

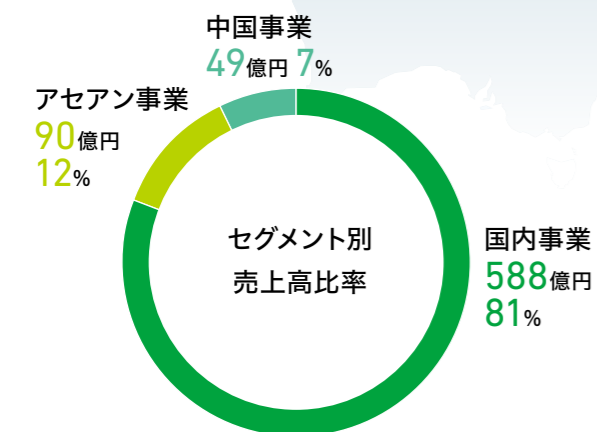
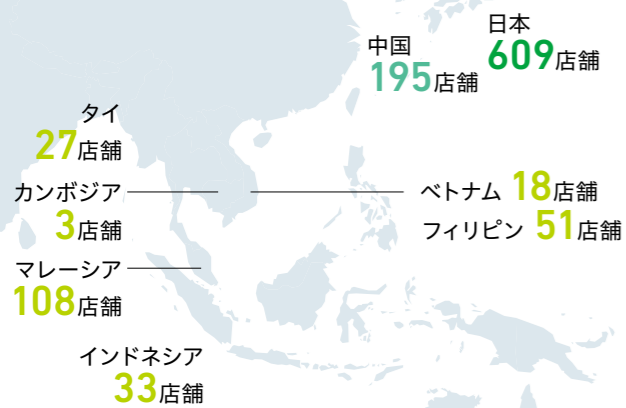
アミューズメント事業を主軸として、全国のショッピングセンターを中心に店舗を展開。直近では好調の戦略型小型店の出店を加速し、シェアを広げています。また、2022年に制定したパーパス・サステナビリティ方針の具現化に向けて、こどもの成長やSDGsをテーマにした新業態の開発にも取り組んでいます。

●アセアン事業

プレイグラウンド事業を中心に、各国の主要都市圏で店舗を展開。イオングループだけではなく、現地の有力ディベロッパーとの連携により出店を拡大しています。特に、競合他社には真似できない日本水準の安全規格と接客レベルは高い評価を受けており、ソフト面での優位性を維持しています。

●中国事業

各主要都市においてアミューズメント事業とプレイグラウンド事業の両方を展開。2022年には運動・健康をテーマにこどもの成長を支援する新業態をオープンするなど、市場ニーズの変化を捉え、業態開発に生かしています。他にもアプリやECサイトなど、デジタル活用も積極的に進めています。



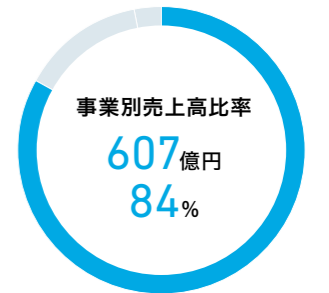
事業領域

アミューズメント

誰でもすぐに夢中になれる、えがおを生み出す空間

「明るく」「清潔」「安全・安心」を基本に、ファミリー向けのアミューズメント施設を運営しています。最新のプライズゲーム、メダルゲーム、小さなお子さまでも楽しめる乗り物など、お子さまと家族が夢中になれる様々なあそびを提供するとともに、あそびながら学べるオリジナル機種も開発しています。

業態	開始年	イメージ	店舗数 (2022年度)
ファミリー向けアミューズメント	2001年	mollyfantasy	592店舗
オールエイジ対応	2010年	Mollyfantasy f	46店舗
戦略的小型店	2018年	TOYS SPOT PALO	183店舗



店舗数
国内 601店舗 (73.2%)
海外 220店舗 (26.8%)

会員数
国内子ども会員 74万人
オンライン会員 60万人

プレイグラウンド

自由にあそびをつくり上げる、ふれあいが生まれる空間

思い切り遊べる大きな遊具や、創造力を育む知育玩具などを備える室内遊具施設を運営しています。家族や友だち、店舗スタッフとあそびを通じてふれあうことで、お子さまの心と身体の成長をサポートします。海外を中心にテーマ型プレイグラウンドも展開しています。

業態	開始年	イメージ	店舗数 (2022年度)
屋内公園的プレイグラウンド	2010年	kidzoona	193店舗
あそびを通じた子育て支援 母子分離機能を持つ店舗	2009年	SKYDS GARDEN	55カ所
ブランド価値を深める テーマ型大型店舗	2015年	FANPEKKA	12店舗
あそびを通じた環境志向の醸成 SDGsテーマの大型店舗	2023年	ちぎゅうにわ	1店舗



店舗数
国内 60店舗/カ所 (23.0%)
海外 201店舗 (77.0%)

うちアセアン展開状況
マレーシア 30店舗
タイ 21店舗
フィリピン 51店舗
インドネシア 32店舗
ベトナム 10店舗

その他の事業

あそびを軸にした事業の多角化

これまで培ったノウハウを生かし、あそびや家族のふれあいを軸にした新たな事業に挑戦しています。自然とふれあう機会を提供するアウトドア施設や、家族のだんらんをつくりだす温浴施設、時間と場所を問わずにあそべるオンラインゲームなどを提供しています。



価値を生み出す強み

イオンファンタジーは、こども向けエンターテインメントのパイオニアとして、創業以来様々な事業・業態に挑戦してきました。こどもたちの“えがお”を引き出し、グローバルに広げてきた強みこそが、未来に向けた新たな価値創造の源泉です。



グローバルに広がる “えがお”の場と機会

こどもたちのあそびに国境はありません。35年かけて磨き上げてきた独自の業態は、海外でも広く受け入れられ、店舗数を拡大。グローバルに通用する日本初のエンターテインメントとして独自の存在感を発揮しています。

事業展開	8カ国 1,044店舗
店舗の海外比率	40%
グループ外出店比率	39%



こどもたちと そのファミリーとのつながり

国内外で2億人の入場者数と多数の会員数を有する顧客基盤の厚さも当社の強み。特に国内では、すぐに連れていける身近さが子育て中のパパ・ママに高く評価されています。このつながりが、新しいあそびの提案や安定した事業成長を支えています。

年間来場者数(海外含む)	のべ2億人
会員数(海外含む)	450万人
店舗の認知度	73%



「あそび」を広げる 開発力

こどもたちが喜ぶ「色」「動き方」「キャラクター」など、その嗜好性を長年にわたって研究し、ノウハウとして蓄積してきたイオンファンタジー。それが、たくさんの独自業態やオリジナル遊戯機械・遊具・イベントなどを開発・提供できる理由です。

開発した業態数	23業態
オリジナル遊戯機械比率(国内)	43.4%
オリジナル遊具比率	70%
海外における遊具の現地調達比率	89%



えがおを支える 専門人財^{※1}

こどもたちに「たのしさ」と「ふれあい」を提供する人財も他社が追随できない強み。保育士などを積極的に採用するなど店内スタッフの採用・育成に注力するとともに、あそびをサポートする社内資格制度を複数設け、その質を高めています。

保育士、幼稚園教諭資格保有者数	467人
CSインストラクター数 ^{※2}	921人
エンタメリーダー数 ^{※2}	246人
電気工事士資格保有者数	70人

※1 すべて国内の数値 ※2 社内資格



チャレンジする風土

従来の「若者向け」というイメージを一新した「ファミリー向け室内ゆうえんち」という新業態でアミューズメント業界へ参入するなど、国内外で数々の業界初にチャレンジしてきました。その精神は2022年に制定された「FANTASY WAY」の中にも取り入れられ、イオンファンタジーらしさを象徴するものとなりました。

中期経営計画

現中期経営計画の進捗

戦略目標

	計画目標	22年2月期	23年2月期	24年2月期見込
売上高	855億円	601億円	726億円	862億円
営業利益	60億円	△34億円	8億円	40億円

2023年2月期は、中国においてゼロコロナ政策の規制による休業店舗が発生した影響で、中国事業の回復が遅れました。一方で、国内事業はプライズ部門が好調であり、アセアン事業も各国の規制が解除されると回復傾向となったことから、連結業績は売上高726億円、営業利益は8億円となり、ともに前期の業績から大幅に改善しました。

主要施策の進捗

主要施策	2022年度までの取り組み状況
あそび場の進化と拡大	<ul style="list-style-type: none"> ●営業面積の拡大・戦略的小型店の出店推進 <ul style="list-style-type: none"> ・国内におけるカプセルトイ・プライズ専門店の出店拡大(計183店舗) ・海外における小型店舗の出店拡大(計31店舗) ●新たな業態・サービスによる新しい生活様式への対応と需要創出 <ul style="list-style-type: none"> ・主力業態のリニューアルによる提供価値の進化(子育て支援機能複合フロアー、NEWモーリーファンタジー) ・自然・環境のまなびを意識した新業態の開発(ちきゅうのにわ、ミューの森) ・客単価の増加を促すサブスクリプション型サービスの提供(よくばりパス)
ポートフォリオマネジメントへのシフト	<ul style="list-style-type: none"> ●新規事業拡大と新規出店先開拓による経営基盤の複合化 <ul style="list-style-type: none"> ・売上構成比における新規事業比率の向上(22年度6.4%) ・グループ外への出店拡大(22年度54%) ●デジタルシフトの加速 <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル会員数の拡大(22年度74万人) ・投資金額におけるIT分野への投資比率の拡大(22年度7.6%)
フルデジタル化	<ul style="list-style-type: none"> ●DXによる攻めと守りの業務改善 <ul style="list-style-type: none"> ・ツール・システム導入による後方作業の大幅削減(△12.4%) ・デジタル会員数の拡大(計74万人)
成長を支える人材・組織・土壌改革	<ul style="list-style-type: none"> ●チャレンジを促す社内風土作り <ul style="list-style-type: none"> ・パーパス・サステナビリティ方針・行動指針の制定(21年度、22年度) ・営業組織の事業部化による意思決定を迅速化(22年度) ・店舗責任者の社員化や社員区分の細分化による柔軟な就労環境の整備

セグメント別事業施策

	21・22年度の事業施策結果	23年度の事業施策
国内	<ul style="list-style-type: none"> ●新業態・新サービスの開発 <ul style="list-style-type: none"> ・「MOLLY.ONLINE スクラッチ」 ・「PRIZE SPOT PALO」 ●既存業態・サービスの進化・発展 <ul style="list-style-type: none"> ・「NEWモーリーファンタジー」の開発 ・「よくばりパス」の強化 ・「OYUGIWA」の2号店出店 	<ul style="list-style-type: none"> ●新業態・新サービスの開発 <ul style="list-style-type: none"> ・「ちきゅうのにわ」「ミューの森」 ・「スキッズガーデン」(単独出店) ・「子育て支援機能複合フロアー」 ●既存業態・サービスの進化・発展 <ul style="list-style-type: none"> ・メダル部門への投資再開 ・戦略的小型店のさらなる拡大
アセアン	<ul style="list-style-type: none"> ・新業態「EDOKKO」のオープン(インドネシア) ・戦略的小型店「KID's BOX」の出店拡大 ・一時区画への出店拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・「KID's BOX」出店のさらなる拡大(+17店舗) ・「kizooona」のバージョンアップ ・オリジナル遊具の開発
中国	<ul style="list-style-type: none"> ・新業態「モーリー游育運動館」のオープン ・戦略的小型店「活力空間」の出店拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・「活力空間」の出店継続 ・一時区画への出店拡大

主要施策1 「あそび場の進化と拡大」における取り組み事例

子育て支援機能複合フロアをプロデュース (日本・千葉県柏市)

2023年4月、子育て支援機能を複合させたフロアをイオンモール柏にオープンしました。ファミリーアミューズメント「モーリーファンタジー」と併設の「スキッズガーデン」を核として、同一フロアに学童やこどもクリニックなど子育てに必要となるテナントを集約。こどもと親のニーズに一挙に応え、地域における子育てコミュニティの活性化に貢献します。



エンターテインメント型グランピング施設「ミューの森」をオープン (日本・山梨県上野原市)

2023年7月、ファミリー向けのグランピング施設「ミューの森」をオープンしました。当施設は、宿泊やお食事の提供だけでなく、自然の中のアスレチックや村づくりを体験できるワークショップによってこどもたちに自然とふれあう機会を提供します。これまで培ってきたプレイグラウンド開発のノウハウを、屋外という新たなチャンネルで展開しました。

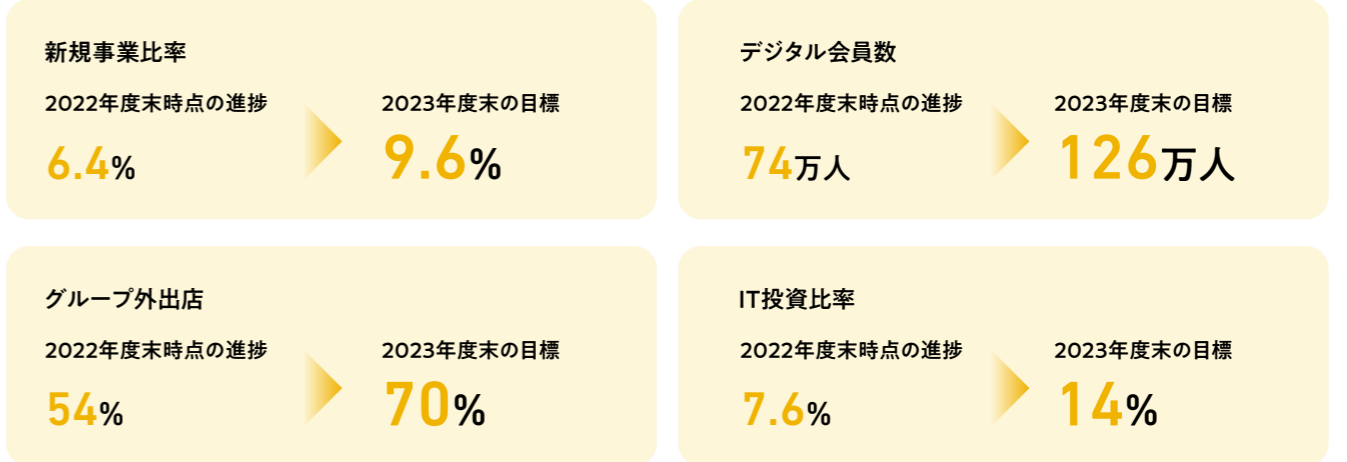


新業態「モーリー游育運動館」の開発 (中国・湖北省武漢市)

2022年7月にオープンした「モーリー游育運動館」は、中国国内の健康意識の高まりを受け開発した、運動がテーマの大型プレイグラウンド施設です。中国の小学校の教育プログラムと連動し、専属トレーナーが様々な運動・体操をサポートします。館内はLEDモニターなど最新技術を多数盛り込んでおり、自社開発したデジタル遊具と専用アプリによって成長を記録することが可能です。



主要施策2 ポートフォリオマネジメントの進捗



次なる成長に向けて

パーパスの実現に向けて、子どもたちの成長を育む企業へ

子どもにとってあそびはまなびであり、成長に不可欠なものです。イオンファンタジーは、“えがお”あふれる世界の実現に向け、子どもたちを夢中にする“たのしい体験”を提供することで、子どもたちの「こころ・あたま・からだ」を育み、健やかな成長をサポートします。

当社の目指す姿

子どもたちの“たのしい”を創造し、
「こころ・あたま・からだ」の成長を育む企業になる

提供価値(子どもの成長)

こころ

社会や他人との交流により
人間性が豊かになる

規律遵守、生活習慣、自立心、
自律心、協調性意欲、向上心、
感情、道徳

あたま

様々な問題に取り組み
解決できるようになる

知識、技能、思考力、
判断力、表現力

からだ

身体の動作により
たくましく生きるための
健康や体力を養う

筋力、瞬発力、持久力、
俊敏性、平行性、巧緻性、
柔軟性、適応力

重点戦略

子どもの成長に貢献できる業態を開発し
より多くの「あそびの体験価値」を提供する

	従来戦略	今後の戦略
国内	<ul style="list-style-type: none"> 安全安心なファミリーアミューズメント(モーリーファンタジー)の全国展開 ファミリー層と相性のよい区画(玩具売場等)を中心に来店を拡大 	<p>体験価値を提供する業態の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの成長・社会的価値提供を軸としたプレイグラウンド新業態の開発 あそびの拡大によるアミューズメントの進化や機能の複合化 グループ内外への積極的な出店 戦略的小型店の継続拡大  
アセアン	<ul style="list-style-type: none"> 単業態の量産によるスピード重視の店舗展開 業態に見合う商圈を選定したうえで出店 	<p>商圈規模に対応する業態の開発と最適化</p> <ul style="list-style-type: none"> 小商圈向けの小型業態の開発 中商圈における既存業態のアップデート 大商圈における1つのショッピングセンターへの複数出店 日本品質の商品・接客による差別化  
中国	<ul style="list-style-type: none"> 海外進出の足掛かりとして国内成功業態の持ち出しを中心とした出店拡大 	<p>収益性の高い“たのしい”業態への転換</p> <ul style="list-style-type: none"> プレイグラウンド事業の拡大 市場ニーズに沿った新業態の開発  

こどもと地球の未来を育む 最新プレイグラウンド 「ちきゅうのにわ」

「ちきゅうのにわ」は、東京ソラマチ®「みんなの遊び場 ソラフルパーク」の中核店舗として2023年に誕生しました。
内装デザインの美しさや、幅広い年齢のこどもが遊べる遊具、スタッフの接客力が高い評価を受けています。



お客さまへの価値 ① 地球と環境について学べる内装デザイン

店内は、「ちきゅうであそぶ」をテーマに、冰山や火山、海や森など自然をモチーフとしたエリアで構成されています。様々なアプローチで地球や環境問題を表現し、自然とふれあうように地球のおもしろさと大切さを感じられる体験を提供しています。

キッズガーデン

「ちきゅうのにわ」のメインスポット。大きな冰山のようなスライダーや、火山をイメージしたネット遊具、地層を表現した砂場など、屋外公園のようなダイナミックな遊具がたくさん詰まっています。また、ごっこ遊びができるコーナーを展開するほか、世界中から厳選された知的玩具を使った遊びのサポートもあります。

再生材を使用した遊具



様々な素材の地面がある「地層エリア」



リサイクルについて学べる遊具



ベビーガーデン

赤ちゃんから2歳までのお子さまを対象としたゾーン。小さなお子さまたちが思わずおにになれるような遊びがいっぱい。



ゲットガーデン

木製内装など“地球を大切に”する想いが込められたゲームゾーン。まるで公園にいる時のように誰もがリラックスして時間を過ごせます。



お客さまへの価値 ② 「こころ・あたま・からだ」の成長を促す、様々なあそびの仕掛け

これまで培ってきたあそびの開発ノウハウを活かし、店内にはからだを動かすものから頭を使うものまで、こどもたちを夢中にさせるあそびを結集させています。様々なあそびとそれを通じたふれあいによって、こどもたちの「こころ・あたま・からだ」を育み、成長につなげています。

こころ



異年齢の友だちや店舗スタッフとふれあい交流することで、協調性や思いやりの気持ちを育みます。友だちや家族と「ごっこ遊び」をすることで、想像力や表現力を身に付けます。

あたま



SDGsなどをテーマにしたイベントやワークショップを通じて、環境に関する知識を自然に身に付けます。また、様々な色、形、仕組みの玩具に触れることで、思考力も向上していきます。

からだ



思い切りあそべる大きな遊具で、跳んだり走ったりボールを投げたりと大きな動きをすることで、筋力や持久力、敏捷性などを育みます。



お客さまの声

- 砂遊び、ままごと、知育玩具、屋外テラス遊具、ボールプール、安全性が高めの屋内遊具があり、幼児はとても喜ぶと思います。安全で安心して綺麗な場所で遊ばせられるので、リピートしたいと思いました。接客もとても丁寧でした。
- スタッフも親切で、リピしたくなります！飛び跳ねるエアークッション、ボールプールから乗り物、パズル、おままごとの店などがすべて親子一緒に遊べます！
- 地球に関する名前の遊び道具になっているので、それとなくこどもに教えてあげられるよい施設だと思う。

海外各国で受け入れられる「あそびの場」を目指して

イオンファンタジーは2007年に中国に進出して以降、アジア9カ国にプレイグラウンド施設を展開してきました。私たちが重視しているのは、ただ遊具を設置するだけではない、唯一無二の「体験価値」を提供すること。それがお客さま、ディベロッパー、地域の皆さまに愛され、選ばれ続ける理由です。



お客さまへの価値

安全・安心なあそび場と唯一無二の「体験価値」の提供

スタッフとの「ふれあい」によるたのしい体験

子どもたちがスタッフと一緒に遊び、その姿を大人たちが夢中の眼差しで追い、見守っている。そんな光景が当社のプレイグラウンドには溢れています。この独自の「体験価値」の提供が、他社には真似できない唯一無二の魅力です。

価値を生み出すために、「お子さまを夢中にさせるスタッフ」は大きな強みです。専門の研修を受けたスタッフたちが、表情、言葉遣い、遊びへの誘い方など、お子さまの気分を盛り上げる工夫を実践しています。



安全・安心・清潔なあそび場を

すべての場所・遊具の清掃、点検や玩具の消毒を毎日実施しているほか、遊具の開発は日本の公園施設の安全基準に準じています。日本基準の安全・安心がファミリーに支持されています。

ディベロッパーへの価値

多様な「あそび場」のニーズに対応

国、地域、エリアにより商圈規模やお客さまの所得水準も様々。その幅広いニーズに合わせて業態を開発しています。これにより展開出店数を圧倒的に拡大し、大手ディベロッパーとの良好な関係を構築。アミューズメント、プレイグラウンド施設の誘致において、イオンファンタジーの価値を理解いただき、優先して出店できる信頼を勝ち得ています。



地域社会への価値

雇用を生み出し地域の活性化に貢献

スタッフ雇用・独自の教育体制を構築

イオンファンタジーのプレイグラウンド施設は、スタッフを現地で採用しています。採用後には子どもを夢中にさせる様々な研修プログラムを定期的を実施し、ただ楽しいだけではない「感動」を生み出す接客を学びます。新型コロナウイルスの影響による長期間の営業規制中も、雇用を維持して教育を継続。安定した雇用にも貢献しています。



地域の様々な子どもたちにも「あそび」を提供

各国において様々な社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。例えば、自治体や福祉施設と連携している団体との協力・要請により、普段は有料施設であそぶ機会のない子どもたちを、一時的に設置したプレイグラウンドに招待。地域の皆さまにもこの活動が大きく評価、歓迎されています。



財務担当役員メッセージ



業績のさらなる改善と効果的な成長投資を推進して企業価値の持続的な向上を目指します。

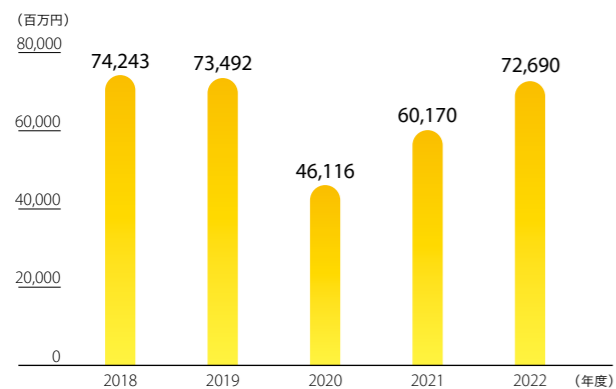
取締役兼常務執行役員管理統括兼リスクマネジメント担当
井関 義徳

前期の振り返り

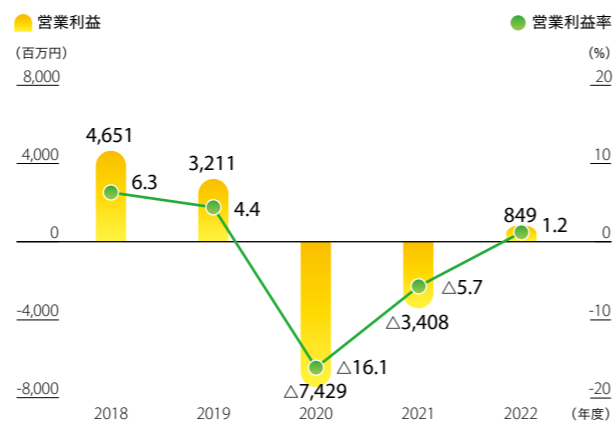
2022年度の連結業績は、新型コロナウイルス感染症が収束に向かう中、アセアン事業と国内事業を中心に大きく改善しました。

セグメント別の状況として、アセアン事業は、お客さまの当社プレイグラウンドに対するニーズの高まりに加え、プロモーションやイベントの強化、接客のスキルアップに取り組んだ結果、売上高、営業利益ともに過去最高を達成しました。国内事業は、新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、売上高、営業利益ともに回復が進みました。中国事業は、ゼロコロナ政策の長期化によって売上高が伸び悩みましたが、2023年3月以降の売上はコロナ前水準の80%以上にまで回復しています。

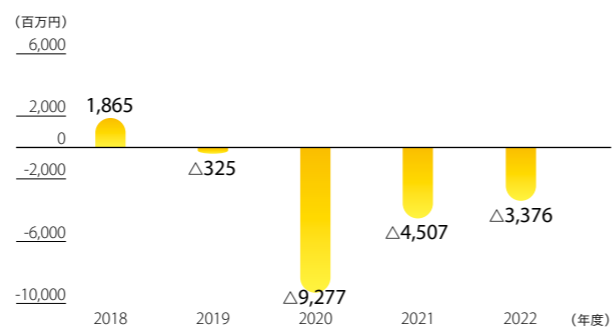
売上高推移



営業利益推移



親会社株主に帰属する当期純利益または純損失推移



財務課題について

当社は新型コロナウイルス感染症の影響を強く受けたことにより、財務体質の課題が浮き彫りとなりました。具体

的に、2020年2月に47.8%だった自己資本比率は2023年2月に16.9%まで低下し、DEレシオは2020年2月0.5倍から2023年2月3.0倍へと上昇しました。その一方で、昨年からアセアン・国内事業を中心に業績は力強く回復しています。

こうした状況を踏まえて、今後もさらなる利益改善と効果的な成長投資を推進し、有利子負債をコントロールすることで、自己資本比率やDEレシオなどの経営指標や財務体質の改善・強化を図り、グローバルな成長と安定的な株主還元を実現していきます。

	2023年2月	2024年2月期から2027年2月期まで	長期目標
自己資本比率	16.9%	30%超	40%超
DEレシオ(倍)	3	1.5以内	1.0以内

※DEレシオの有利子負債は、リース債務を除外しています。

投資と資金調達方針

まず、投資について、2022年度は国内113店舗、連結計で142店舗の出店を実施し、国内においては投資効率のよい戦略的小型店を102店舗出店しました。年間総投資額は62億98百万円(前年同期72億89百万円)となり、効果的な投資を実行しながら連結営業利益を黒字回復させることができました。キャッシュ・フローは、営業キャッシュ・フローが前期差28億81百万円増の90億57百万円、投資キャッシュ・フローはマイナス48億45百万円となり、借入金前期より21億42百万円減少しました。

今年度は国内・アセアンを中心に250店舗を超える出店を目指し、2020年2月期以来となる年間100億円超水準の投資を実行する計画です。また、国内において遊戯機械の改廃投資を再開し、前年から売上が改善傾向にあるメダル部門のさらなる売上増を目指すと同時に、IT投資も積極的に実行して業務効率の改善と営業力の強化を図ります。

次に、資金調達について、国内においては資金リスクに備えて短期借入・当座貸越枠の増額を実行し、国内8行から約300億円の借入枠を確保しています。当座貸越契約は短期性の借入であるものの、今後は一部の当座貸越枠について長期借入に振り替える方向で調整しており、より安定したバランスシートを目指す方針です。また、海外子

会社においては、営業支出の約2～3カ月分の現預金の確保を目処として不測の事態に備えています。そして、今後については前述の財務課題を念頭におきながら安定した資金繰りを実行し、将来の成長投資財源の確保に向けて多様な資金調達手段の検討を進めていきます。

資本コストを意識した経営

資本コストの計算の基礎となる数値の採用には多様な考え方がありますが、当社ではWACC(加重平均資本コスト)を投資家が期待するリターン値として理解したうえで、現在のWACCを8～9%と算定し、ROEの目標値を10%超に設定しています。このROE目標の達成へ向けて、店舗利益率の高いアセアン事業をさらに拡大して海外売上比率を高めていくとともに、ポートフォリオマネジメントを進めていきます。また、財務レバレッジについては、将来的に最適な負債比率を実現できるよう努めます。

株主還元について

当社は、株主の皆さまへの長期的かつ安定的な利益還元を経営の最重要目標のひとつと位置付けて、内部留保の充実と財務体質の強化を推進し、業績・配当性等を総合的に勘案した還元を実施しています。前年度は、親会社株主に帰属する当期純利益が赤字でしたが、配当の継続性を重視し、1株当たり年間10円の配当を実施しました。今年度の配当金については、前年度据え置き年間10円を見込んでおり、財務の健全性を重視した内容としています。なお、今後の増配に向けては、中国事業の損益の不透明感が解消し、連結業績予想を上回る利益が見込めた段階で検討を行う考えです。

今後も財務体質の改善に注力して成長戦略を下支えし、企業価値のさらなる向上と安定した株主還元を実現していきます。同時に、今後の成長や企業価値向上に向けた取り組みについて、投資家の皆さまにご理解いただけるよう自ら積極的なIR活動を実施して、財務担当役員としての責務を全うしていきたいと考えています。

サステナビリティマネジメント

サステナビリティ推進体制

当社は、2022年に「サステナビリティ方針」を制定し企業活動の中核としてサステナビリティ経営を推進しています。

目標数値や取り組みの進捗を管理することを目的に、取締役会諮問機関として「サステナビリティ委員会」を設置。委員会は、代表取締役社長を委員長として、委員の3分の1以上を社外の有識者から選任し、取締役会から諮問を受けた内容について協議、答申します。

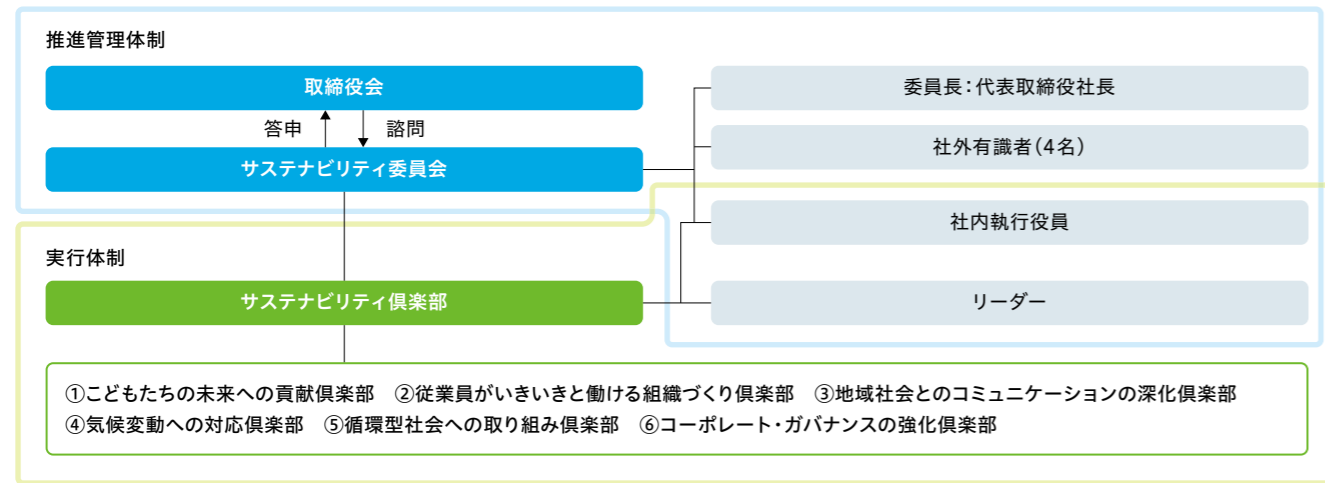
「サステナビリティ委員会」の下部組織として、特定したマ

テリアリティごとに部署横断型チーム「サステナビリティ倶楽部」を設置し、具体的な取り組み内容を検討・実行しています。各倶楽部は、次世代を担う人材をリーダーとして活動し、具体的な指標と目標を設定し取り組みを進めています。

今後、持続可能な社会への貢献と企業価値向上を実現する企業を目指し、サステナビリティ経営の実効性を高めていきます。

▶ **サステナビリティ方針**
<https://www.fantasy.co.jp/company/sustainability/sustainabilitypolicy/>

サステナビリティ推進体制図



サステナビリティ委員会での主な議題(2022年度)

開催日時	主な議題
2022年 5月16日	当社マテリアリティごとの「ありたい姿」「目標」「取り組み内容」について
2022年 7月11日	公表する「目標」「取り組み内容」の決定・TCFD提言に沿った情報開示について
2022年12月13日	公表した「目標」「取り組み内容」の進捗について

マテリアリティ(重要課題)の特定プロセス

1 課題の抽出	マテリアリティの特定にあたり、SDGsやグローバルリスクレポートなどを参考に、将来のメガトレンドを踏まえつつ、社会課題を洗い出しました。そのうえで、事業活動におけるリスク及び機会の観点で課題の絞り込みを行い、自社にとっての重要な社会課題の抽出を行いました。
2 ステークホルダーにとっての重要性	ステークホルダーにとっての重要性において、参考指標には、グローバル・コンパクトの10原則、気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)、DJSIやFTSEなどのESG評価項目などから整理しました。また、自社の事業活動において重要と考えるビジネスパートナーや競合他社などの情報も参考にしました。
3 企業にとっての重要性	各社会課題について、機会とリスクの両面から、経営層個々人が自社にとっての重要性を評価しました。その結果をもとに、経営層でディスカッションを行い、主要な6テーマに分類しました。
4 重要課題の決定	取締役会による承認を経て、自社で優先的に取り組むべき社会課題を「重要課題」として決定しました。決定後、重要課題の実行・進捗管理のために体制を設置し、各課題ごとの目標(KPI)の設定と、取り組み内容の検討を行いました。

マテリアリティ(重要課題)

マテリアリティ	長期目標 (2050・2040年)	中期目標 (2030年)	取り組み
S	子どもの未来への貢献	未来の社会を作る子どもたちの権利を守り、一人でも多く“えがお”で、未来を夢見て生きられる社会	子どもたちの“えがお”をひろげる新たな機会の創出 一人でも多くの子どもにあそび・まなびを届ける事業の推進 社会課題についてあそび・まなびができる機会づくり お客さまとともに、子どもの権利を守る活動を支援
	従業員がいきいきと働ける組織づくり	すべてのファンタジーピープルが仕事もあそびも夢中になれる会社	ダイバーシティの推進(多様な価値観を活かすための教育・お互いを知る場づくり) 働き方の改革 ファンタジーピープルいきいき度: 75% <small>※いきいき度=サーベイ項目のうち、「働きがい」「働きやすさ」「成長」に関する項目の平均肯定回答率</small>
	地域社会とのコミュニケーションの深化	たのしさとふれあいの場の提供を通じて、“えがお”あふれる地域社会	社会福祉施設への訪問 社会福祉施設の子どもたちのご招待会の実施 地域の子どもたちのお店づくり
E	気候変動への対応	定量目標 2040年 店舗で排出するCO ₂ 等の総量ゼロを目指します 定性目標 未来の子どもたちのために「あたりまえ」を見直し、地球とみんなが“えがお”になる社会	Scope 1・2におけるCO ₂ の削減 Scope 3におけるCO ₂ の削減(新設) 環境についてあそび・まなびができる機会の提供 気候変動によるリスク・機会への取り組みの推進
	循環型社会への取り組み	「ゴミ減らそ!もっ回使える?再生しよう!」をみんなで育む社会	お客さまとともに“ゴミ”減らそ!の取り組みの推進 店舗で廃棄されるプラスチック*総量30%削減(2019年度比) <small>※主要5種</small> 店舗で不要になった遊戯機械の廃棄率10%未満
G	コーポレート・ガバナンスの強化	ステークホルダーと信頼を築き、ファンタジーピープルを守り、持続的成長できる会社	コーポレートガバナンスコードの実践体制の強化 コンプライアンス研修の実施(国内・海外) 海外子会社のガバナンスの強化 人権デュー・ディリジェンスの実施

※国内外表記以外は、国内事業のみの目標・取り組み
 ※一部開示内容の修正を行いました

社会

子どもたちの未来への貢献

中期(2030年)目標	取り組み内容	2022年度目標	2022年度評価・実績
子どもたちの “えがお”をひろげる 新たな機会の創出	「安全・安心」にあそべる店舗・遊戯機械・遊具の拡大	店舗・遊具の安全基準の整備	△ 全部署分の棚卸まで完了
	一人でも多くの子どもにあそび・まなびを届ける事業の推進	店舗のユニバーサルデザイン化に向けた課題抽出完了	○ お客さまアンケートによる課題抽出完了
	社会課題についてあそび・まなびができる機会づくり	環境社会課題について学べる新業態の展開	○ 2023年3月に「ちきゅうのにわ」をオープン
	お客さまとともに、子どもの権利を守る活動を支援	国内外7カ国統一での「子どもの権利を守る寄付」の実施	△ 2023年度実施に向けて、各国支援団体の決定完了

「安全・安心」にあそべる 店舗・遊戯機械・遊具の拡大

店舗や運営面の安全基準の整理

子どもたちに、より快適で「安全・安心」なあそび場を提供することを目的に、子どもの安全・安心に関する基準整備を進めています。2022年度は今ある店舗や遊具・遊戯機械の安全基準を確認・評価しました。また、健常者だけでなく障がいのあるお子さまも安心して遊べる店舗づくりを目指し、2022年10月、キッズーナ大宮(埼玉県)にご来店のお客さまにアンケートを実施しました。アンケートから見えてきた様々な課題について、今後店舗のオープンや活性化において、ハードとソフトの両面から改善を進め、誰もが安全に、安心して楽しめる店舗を広げていきます。



車いすの方も座って遊べる砂場(2023年度新店「ちきゅうのにわ」に導入)

一人でも多くの子どもに あそび・まなびを届ける事業の推進

「ララゆめ」の実施

子どもたちに夢を持つことの大切さと、夢を叶える喜びを伝え、一人でも多くの子どもが夢を持ち続けられる社会を目指して2003年からスタートした「ララゆめ(ララちゃんが夢をおてつだいします!)」。2022年度は第32弾として7歳のお子さまの「競馬の実況をしたい!」という夢を叶えるお手伝いをしました。事前にプロのアナウンサーとの勉強会を実施し、ポイントを教わったうえで、競馬場での実況に挑戦。緊張しながらも、無事に競馬実況を終えました。2023年度は、「ララゆめ」誕生20年目を記念し、イオングループ各社の協賛のもと20人の子どもたちの夢を叶える計画です。



アナウンサーによる事前指導の様子



競馬場での実況に夢中

世界こどもの日に国内外各店舗での無料招待を実施

11月20日は、世界の子どもたちの相互理解と福祉の向上を目的として、国連によって制定された「世界こどもの日」。当社では、2022年のこの日に、国内のプレイグラウンド210施設を無料開放したほか、海外各国合計7,000名の子どもたちを無料招待しました。さらに、当社が運営する温浴施設「OYUGIWA」の各店舗においても、お子さまの入館料を無料にする「子ども無料デー」を実施。今後も、あそびを通じて子どもたちの健やかな心身が育まれることを願い、一人でも多くの子どもたちに“えがお”を届ける活動を続けていきます。



日本ではプレイグラウンドを全店舗無料開放



海外では合計7,000名を無料招待

ゲーム学習プログラムを発達障がい等の児童対象の 放課後等デイサービスへ提供

当社は、運営するオンラインスクール「ゲームカレッジLv.99(レベルキュウキュウ)」のゲーム学習プログラムを、株式会社ハピスポが運営する、発達に何らかの障がいや特性、課題をもつ小・中・高校生を対象にした放課後等デイサービス「マイスクール@はんなん」にて、2022年7月より提供を開始しました。「ゲームカレッジLv.99」はゲーム教育の専門家の監修のもと、論理的思考力・創造性・コミュニケーション能力・問題発見力・探求心・目的達成力・マルチタスクなどの能力を育むコースを設けています。これらのカリキュラムを、地域の放課後等デイサービスで過ごす子どもたちの能力を様々な側面から伸ばしていくプログラムのひとつとして活用していきます。



ゲーム学習プログラムの様子

社会課題についてあそび・まなびができる 機会づくり

プレイグラウンドにおいてSDGsイベントを開催

2022年11月、当社が運営するプレイグラウンド「スキッズガーデン」55店舗において、SDGsの17の目標の中の「つかう責任」をテーマにしたイベント「リサイクルの達人!」を開催しました。これは、未来の社会をつくる子どもたちが、あそびを通じてSDGsについて学ぶことで、サステナブルな社会を実現することを目指しています。期間中、943名の子どもたちに参加いただきました。今後も、子どもたちがSDGsについて遊びながら学ぶことができるイベントを実行していきます。



スキッズガーデン倉敷店



スキッズガーデン北戸田店

お客さまとともに 子どもの権利を守る活動を支援

「あそんで募金」

「イオン ウクライナ子ども救援募金」の実施

当社では、2012年11月より毎月11日を「ファンタジー スマイルデーあそんで募金」の日として、店内にある対象機械で遊んでいた売上の10%相当額を子ども支援活動、環境保全活動に役立てています。2022年度の寄付額(2021年度実施分)は119万2,560円となりました。また、毎年3月には「拡大あそんで募金」として3月11日前後の売上の10%を東北地域の復興支援として寄付しており、2022年度は249万6,040円を3団体に寄付しました。

また、2022年度は、突然の争いに巻き込まれ、慣れない避難生活を余儀なくされている子どもたちを支援するため、「イオン ウクライナ子ども救援募金」を3月中旬から4月下旬まで実施。お客さまからお寄せいただいた65万9,127円を公益財団法人日本ユニセフ協会に贈呈しました。

社会

従業員がいきいきと働ける組織づくり

中期(2030年)目標	取り組み内容	2022年度目標	2022年度評価・実績
国内外女性課長職以上比率:50% 障がい者雇用率:5% 男性育児休暇取得率:100%	ダイバーシティの推進 (多様な価値観を活かすための教育・お互いを知る場づくり)	国内外女性課長職以上比率:44%	○ 国内外女性課長職以上比率:46%
		障がい者雇用率:3.2%	○ 障がい者雇用率:3.2%
		男性育児休暇取得率:50%	○ 男性育児休暇取得率:100%
ファンタジーピープルいきいき度*:75%	働き方の改革	エリアマネージャーの日常・非日常業務の削減	○ アンケートにおける「時間削減できた」の回答率:94%
		サーベイの実施と、改善に向けた取り組み	○ モラルサーベイの設計後、実施まで完了

※いきいき度=サーベイ項目のうち、「働きがい」「働きやすさ」に関する項目の平均肯定回答率

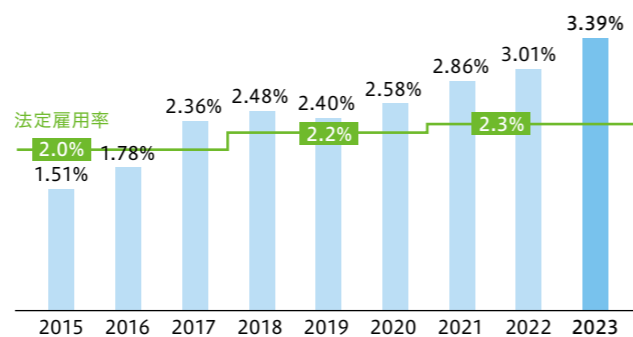
ダイバーシティの推進

障がい者雇用の推進

当社では、2008年度から障がい者雇用をスタートしました。2017年3月からは専任部署「ジョブサポート」を設置し、障がい者の採用や配属部署への理解促進、配属後の定着と戦力化に向けたサポートなどを行っています。採用活動においては、オンライン会社説明会の開催や専門職の採用を行うほか、支援機関との協力により、見学と実習や、トライアル雇用制度を活用し、入社前に当社で働くことを経験できるなど、安心感のある雇用につとめています。2021年度には、配属後の定着と戦力化に向けた障がい者の評価制度を新たに導入したほか、チームリーダーへの登用制度、パート社員の社員登用などの活躍推進を強化。また、業務内容においても単純作業を行う「定型業務」と難易度の高い専門業務を行う「担当業務」に加えて、その中間地点となる「スポット業務」を導入することで、個人の強みを生かした働き方を推進しています。また、入社1カ月、3カ月、半年経過後にヒアリングを行うなど、定着率の向上に向けた取り組みも実施しています。その結果、2023年6月末時点の障がい者雇用率は法定を上回る3.39%、2022年度の定着率は約89%となりました。障がい者雇用率5%という2030年目標の達成に向け、今後店舗での採用・活

躍を推進すべく、採用までの概要やフロー、障がい特性の理解や定着率向上のための取り組み等を記載した「障がい者活躍の手引き」の作成のほか、障がいを理解してもらうセミナーを進めていく予定です。

障がい者雇用率推移(2023年6月末時点)



誰もがライフスタイルに合わせて

夢中になって働ける新たな制度の導入

当社では、2022年6月、パートタイム社員・アルバイトを含む全従業員を対象に、新休暇制度「ハグくみ休暇」「ドナー休暇」を導入しました。「ハグくみ休暇」は配偶者が出産した際に、出産より1年以内に連続5日間を上限に取得できる年間付与日数外の有給休暇、「ドナー休暇」は骨髄または末梢血管細

胞の提供をする際に取得できる特別休暇で、従業員の声から導入が実現しました。本制度の導入により、従業員それぞれのライフスタイルに合わせた働き方への選択肢が広がりました。当社は、今後も当社のパーパスの実現を目指し、お客さまへ“えがお”をお届けするスタッフ一人ひとりが夢中になって働ける職場環境づくりを行ってまいります。



千葉県男女共同参画推進事業所表彰において、千葉県知事賞を受賞

2023年1月24日、当社のダイバーシティ推進の取り組みや、従業員が働きやすい制度と風土づくり、働き方改革などが認められ、「令和4年度千葉県男女共同参画推進事業所表彰」において、「千葉県知事賞」を受賞しました。当社では、若手社員が先輩社員に相談できる制度や自己啓発補助金制度を導入しているほか、一時保育費用補助制度や保育園との保育枠確保の提携、「ハグくみ休暇」など、男女問わず子育てと仕事を両立しやすい制度づくりを行っています。同時に、性別役割分担意識の解消や働きやすい職場づくりのための研修などを実施し、制度が使いやすい風土づくりを進めています。今後も従業員がいきいきと“えがお”で働きやすい環境づくりに努めてまいります。



千葉県庁での授賞式(2023年1月24日)

働き方の改革

健康経営優良法人・くるみん認定

当社は、2020年より健康経営の実現を目指し、健康診断受診率の向上や喫煙率の低下などの取り組みを推進しています。また、多様な人材が活躍できる企業を目指し、2013年に導入した在宅勤務制度に加え、2021年度には契約社員・パートタイム社員によるストアマネージャーを正社員化する制度を導入。これらの結果、2022年3月に経済産業省が設計し日本健康会議が運営する「健康経営優良法人認定制度」の「健康経営優良法人 2022」(大規模法人部門)と、「子育て企業サポート企業」として厚生労働大臣の認定を受けた証である「くるみん認定」を受けました。



従業員サーベイの実施と改善に向けた取り組み

いきいき度の把握と、課題把握に向けたサーベイを実施

当社の創出価値であることもたちの「たのしさ」と「ふれあい」をつくりだす源泉は、国内外のファンタジーピープル(イオンファンタジーで働くすべての人々)です。当社は、ファンタジーピープルが楽しくいきいきと暮らし、仕事ができる環境をつくることは、こどもたちの“えがお”につながっていくと考えています。2022年には、ファンタジーピープルの「いきいき度」を数値で把握し、課題を見える化するためにサーベイを設計・実施しました。設計においては、外部専門家の知見をもとに、当社が考える「いきいき」の構成要素ごとに設問を設計。2023年2月1日から28日の1カ月間、国内外全ファンタジーピープルを対象にサーベイを実施し、約7,300名(国内外)の回答を得ることができました。いきいき度75%を目指し、本サーベイの結果から課題を分析し、今後の取り組みを検討していきます。

社会

地域社会とのコミュニケーションの深化

中期(2030年)目標	取り組み内容	2022年度目標	2022年度評価・実績	
国内外店舗での 社会貢献活動 のべ累計実施回数 12,000回	社会福祉施設への訪問			
	社会福祉施設のこどもたちのご招待会の実施	国内外における社会貢献活動実施回数:926回	○	国内外における社会貢献活動実施回数:1,266回
	地域のこどもたちとお店づくり			

社会福祉施設への訪問や招待会の実施

国内での取り組み:ララちゃんのハートフル・ツアーを再開

当社のアミューズメント施設「モーリーファンタジー」の人気キャラクター「ララちゃん」が全国の児童養護施設やこども病院を訪問し、こどもたちの健やかな成長を応援する「ララちゃんのハートフル・ツアー」。2016年にスタートし、2019年までにのべ28施設に訪問しましたが、2020年、2021年はコロナ禍で訪問活動の中止を余儀なくされ、全国の200施設の児童養護施設にDVDとイベント資材の寄贈のみ行いました。2022年は「ララちゃんのハートフル・ツアー」を再開し、感染予防対策を講じたうえで、全国19カ所の児童養護施設を「ララちゃん」が訪問。楽しいイベントを通じて約250名のこどもたちにえがおをお届けしました。



社会福祉法人 カトリック社会事業協会 児童養護施設 聖小崎ホームさま (12月16日実施)



社会福祉法人 慈生会 ベトレヘム学園さま (12月19日実施)

中国・アセアンでの取り組み:招待会・訪問活動の再開

プレイグラウンド施設を多く展開する海外事業各社においても、店舗近隣にお住まいのこどもたちや福祉施設のこどもたちを訪問・招待し、遊んでいただく企画を定期的に行っています。店舗への招待会等は、コロナ禍の影響により大幅に回数を減らしていましたが、2022年度は徐々に再開し、中国で856回、アセアンで351回、計1,207回の活動を実施し、地域のこどもたち約15万人に遊んでいただきました。今後も、海外各国においてもえがおあふれる地域づくりを目指し、こどもたちが遊ぶ機会を提供していきます。



タイでの訪問活動



ベトナムの招待会



マレーシア招待会



インドネシア招待会

環境

気候変動への対応

中期(2030年)目標	取り組み内容	2022年度目標	2022年度評価・実績	
事業における エネルギー由来の CO2排出量 30%減 (2018年比)*	Scope 1・2におけるCO2の削減	7%削減(58.6 t-CO2/億円) -遊戯機械のLED化100%完了 -ダウンライトキャンペーンの実施	○	総量・売上高あたりともに 約30%削減達成 (2018年度比)
	Scope 3におけるCO2の削減(新設)	今後検討	-	-
	環境についてあそび・まなびができる機会の提供	環境課題について学べる遊具の自社開発	○	2023年3月より順次展開予定
	気候変動によるリスク・機会への取り組みの推進	TCFD提言に沿った戦略策定と一部情報開示完了	○	財務インパクト試算、対応策の検討は2023年度に実施予定

*単位は売上億円単位

遊戯機械における照明のLED化

当社は、店舗運営で発生する電力を削減・省電力化し、よりCO2排出量の少ない環境に配慮した店舗運営を目的として、2022年8月末までに国内で運営するアミューズメント施設に設置した遊戯機械を100%LED照明に変更しました。

当社が運営するアミューズメント施設は、日本国内では424店舗(2022年6月末時点)と、国内業界でナンバーワンの店舗数です。これに遊戯機械が設置されているインドアプレイグラウンド施設4店舗を加えた、全国428店舗の蛍光灯使用機械1万4,645台をLED化することにより、年間約350万Kwhの電気使用量を削減。天井照明含む当社照明の100%LED化や未使用電気の節電等の取り組みも実施したことにより、2030年目標である「事業におけるエネルギー由来のCO2排出量30%減(2018年度比)」を、8年前倒しでほぼ達成することができました。また、環境面への負担軽減だけでなく、電球を交換する頻度減少での作業負担やコストの軽減を実現しました。

さらに、本取り組みにおいて実施した当社の電気工事士への高所作業研修の知識や経験を、他社へ共有していく新たな取り組みを2023年度からスタート。オペレーションの効率化や売上高の拡大などにも広く貢献しています。

今後は、CO2排出量削減目標の修正も視野に取り組みを継続・拡大していく予定です。



LED化を行う当社メンテスタッフ

環境についてあそび・まなびができる 遊戯機械・遊具の開発と機会の拡大

環境を大事にする想いを次の世代に「つなげる」取り組みの一環として、環境問題について遊んで学べる遊戯機械・遊具の開発を進め、当社店舗以外の様々なイベントに出展しています。2021年に開発したごみ分別とリサイクルを学べる遊戯機械「ぐるぐるリサイクルん」を、2022年8月に大阪府豊中市主催の「豊中まつり」に、12月には、「ごみの削減・リサイクルをゲームで学ぼう! in イオンモール富士宮」に、2023年2月にはイオンモール堺北花田にて開催された「サステナライフDAY ~脱炭素de豊かな暮らし~」に出展し、多くのこどもにあそんでまなんでもらう機会を提供しました。



堺北花田でのイベントの様子

Focus: TCFD 提言への取り組み

TCFD提言に基づく開示

気候変動に伴う自然災害や異常気象の増加等により、当社の店舗が物理的被害を受け、事業運営に影響を受ける可能性があります。当社は、持続可能な社会と企業成長の両立を目指し、2022年9月、TCFDの提言に賛同を表明しました。今後、気候変動問題が当社の事業活動に対して及ぼす影響など、リスクと機会の分析を進め、その結果を経営戦略や取り組みに反映していくとともに、さらなる開示情報の充実に努めていきます。



ガバナンス

当社は、サステナビリティ経営に関して継続的かつ専門的に議論することを目的に、代表取締役社長を委員長とする「サステナビリティ委員会」を取締役会諮問機関として設置しました。本委員会の下部組織に「気候変動への対応倶楽部」を設置し、気候変動に関する取り組みや目標値について実行・進捗管理し、委員会、取締役会に報告しています。

会やリスク管理分科会等で進捗管理を行っています。中期目標である「事業におけるエネルギー由来のCO₂排出量2018年比30%減(売上高億円あたり)」については、対策の実行計画とともに削減計画を策定したうえで進め、サステナビリティ委員会にて進捗を報告し、取締役会に報告しています。

指標と目標

当社では、気候変動関連リスク・機会を管理するための中期指標としてScope1・2(国内)における温室効果ガス排出量を定めています。売上高億円あたりを単位とし、2018年度を基準年として管理しています。2022年度のGHG排出量(Scope1・2・3)は下表のとおりになりました。中期(2030年)目標の達成に向けて、取り組みを進めていきます。

2022年度CO₂排出量:
2018年度比29.3%減
(中期目標:売上高億円あたりの総量2018年度比30%減)

CO₂排出量推移

区分		2018年度	2021年度	2022年度
総量	Scope 1	49	194	532
	Scope 2	37,218	30,811	25,577
	Scope1・2 小計	37,267	31,005	26,109
	2018年比削減率	-	15.7%	29.8%
売上 億円 あたり	国内売上(億円)	592	504	588
	億円あたり排出量	63	62	45
	2018年比削減率	-	1.0%	29.3%
Scope 3	-	39,229	37,669	
Scope1・2・3 合計	37,267	70,235	63,777	

※算定方法変更により2021年度排出量を一部修正しています。

戦略

イオンファンタジーの主なリスクと機会

リスク

- 炭素税等温室効果ガス排出規制政策の影響を受け、仕入原価や資材等コストの増加
- エネルギー利用の規制等の影響を受け、店舗の営業に関する制限(営業時間等)を受けることによる減収
- 異常気象の頻度と規模の拡大がもたらす店舗・従業員等への補填補修コストの増加
- 異常気象の頻度・規模の拡大がもたらす店舗の休業・時短営業の発生による減収

機会

- 環境を意識した遊戯機械・遊具の開発・品揃えが増えることによる収益機会の拡大
- 「プレイグラウンド事業」の接客力等オペレーションの競争力強化による収益の拡大

対応

- ①省エネルギー対応の推進 ③3Rの推進
- ②再生エネルギー調達の拡大 ④新たなビジネスモデルの展開

リスク管理

2022年度に特定したリスクと機会について、「気候変動への対応倶楽部」において議論・検討し、サステナビリティ委員

循環型社会への取り組み

中期(2030年)目標	取り組み内容	2022年度目標	2022年度評価・実績	
お客さまとともに“ゴミ”減らそ!の取り組みの推進	カプセル(カプセルトイ用)のリユース・リサイクル	カプセル回収ボックスの制作・運用方法検証	○	運用方法の検証済。一定基準以上の店舗に設置
店舗で廃棄されるプラスチック*:総量 30% 削減(2019年度比)	店舗で廃棄(発注)するプラスチック備品の削減	プライズ機械用プラスチック備品2種の3Rに向けた実験・運用の検証完了	○	プラスチック備品の回収率80%以上。2023年度から全店で実施予定
		おしぼりの(個別包装なしへの転換や設置について)見直しに向けた実験・検証	△	一部店舗で実施済(今後の方向性は未決定)
店舗で不要になった遊戯機械の廃棄率: 10% 未満	遊戯機械のリサイクル率の向上	全事業所におけるリサイクル・リユース率の実態調査完了	○	実態調査は完了 廃棄率は2021年比△1.3%

※主要5種

カプセル(カプセルトイ用)のリサイクル

プラスチック削減に向けた取り組みとして、お客さまが不要になったカプセルの回収をスタートしました。回収したカプセルは、リユース、リサイクルによって廃棄する量を削減します。その一環として、2022年は「世界こどもの日」を含む11月3日(木・祝)からの18日間、イオンモールで開催された『SDGsクリスマス ～すてられるモノでクリスマスをいろいろ!!～』に参画しました。このイベントは、不要になったカプセルにロスフラワーを入れてクリスマスオーナメントを作り、クリスマスツリーへ飾り付けを行うワークショップです。ロスフラワーやプラスチックごみを減らし、お子さまにSDGsについて楽しく学んでいただくことを目的にイオンモール株式会社が企画したもので、当社は、カプセルトイの空きカプセルを提供しました。今後もカプセルの廃棄量を減らす取り組みに積極的に挑戦していきます。

店舗で使用するプラスチック備品の削減

店舗で使用するプラスチック備品のうち、景品の中に入れて使用する資材クリアケースとピローケースについて、お客

さまが不要になったものを回収し、再利用する実験を実施しています。90%弱の回収に成功し、2023年度からは全店で回収をスタートするほか、他のプラスチック備品についてもリユースの取り組みを拡大していきます。



クリアケース回収ボックス

遊戯機械のリサイクル率の向上

店舗で不要になった遊戯機械の廃棄率を減らすために、当社内(国内外)での再利用、他社への売却による再利用、資源としての再利用等に取り組んでいます。リサイクルしていただけるお取引先さまを拡大することで、廃棄率は大幅に減少しています。今後、お取引先さまとともに取り組みを推進していきます。

ガバナンス

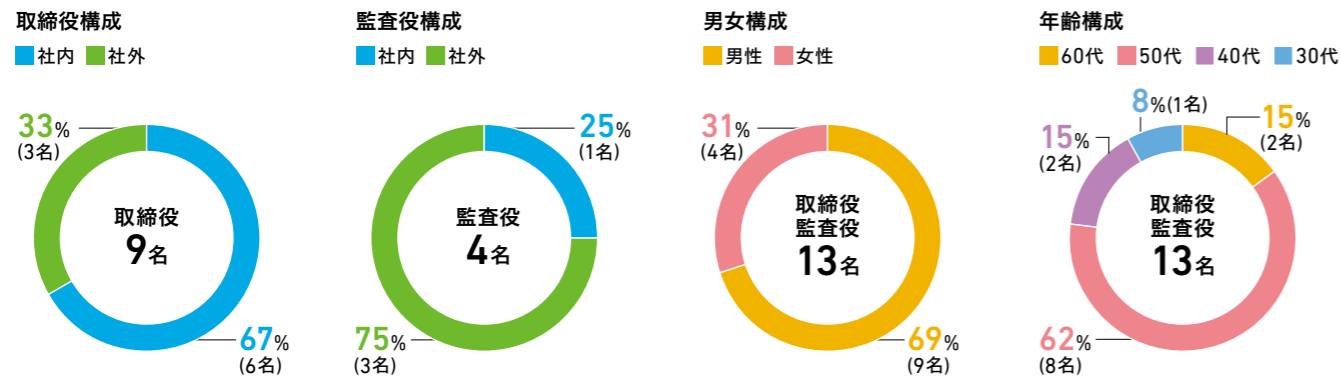
コーポレート・ガバナンスの強化

コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

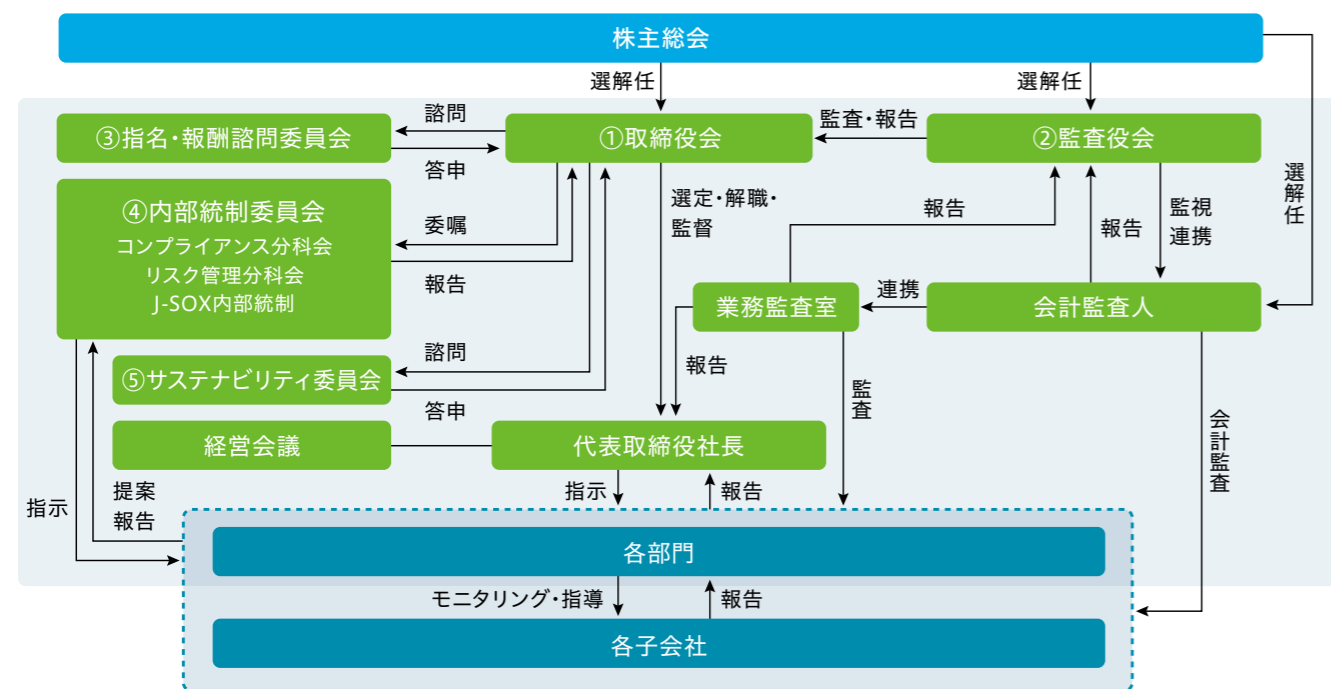
当社は、「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、社会に貢献する。」というイオン株式会社の基本理念と当社のパーパスを、すべての企業活動の指針とします。お客さまやステークホルダーの皆さまとの積極的な対話に努めるとともに、主体的な情報発信を行い、適切な協働を実現します。さらに、適切でわかりやすい情報開示を行い、意思決定の透明性・公平性を確保します。取締役会では、当社の持続的成長と企業価値向上のため、経営理念に基づいた成長戦略・経営計画

を示し、迅速・果敢な意思決定を支援し、実効性の高い監督を行います。また、当社は企業活動の中核としてサステナビリティ経営を進めていくことを掲げました。持続可能な社会への貢献と企業価値向上を実現する企業を目指し、サステナビリティ方針を制定するとともに、具体的な取り組みと数値目標を定め、サステナビリティ経営の実効性を高めていきます。

株主の皆さまとの建設的な対話を通じて得られた意見や評価を経営に反映することにより、持続的成長と企業価値向上に生かします。



ガバナンス体制 (2023年7月28日現在)



①取締役会

取締役会は取締役9名(うち社外取締役3名)で構成されています。経営の方針、法令で定められた事項や経営に関する重要事項を決定するとともに、取締役の職務の執行を監視する機関として、月1回の定時取締役会のほか、必要に応じて随時開催しています。

②監査役会

監査役会は監査役4名(うち社外取締役3名)で構成されています。監査役は取締役会に出席し、取締役会並びに取締役の意思決定に関する十分な監視機能を果たすとともに、定期的に監査役会を開催し、取締役会の業務執行状況及び各取締役の業務執行について協議を行うほか、全取締役から担当業務報告を受けて意見具申を行っています。

③指名・報酬諮問委員会

指名・報酬諮問委員会は独立社外取締役3名及び代表取締役社長1名で構成され、取締役の指名・報酬等に係る評価・決定の客観性を担保するとともに、その決定プロセスを明確にする

ことにより、コーポレートガバナンス体制の充実を図る目的で設置しています。取締役会の諮問に基づき、取締役等の指名・報酬の決定について審議し、取締役会に答申を行っています。

④内部統制委員会

内部統制委員会は社内取締役、常勤監査役及び業務監査室長で構成され、「内部統制システム構築に関する基本方針」に基づき、コーポレートガバナンスの強化を推進する体制を構成することを目的とし、取締役会を補佐する機関として設置しています。

⑤サステナビリティ委員会

サステナビリティ委員会は、当社マテリアリティに関する社外の有識者(取締役会にて決議を受けたもの)、社内取締役及びその他委員長が指名したもので構成され、「こどもたちの夢を育み、“えがお”あふれる世界をつくる。」というパーパスの実現に向け、事業を通じて取り組める環境・社会課題の解決と事業の成長の両立を目的として設置しています。取締役会の諮問に基づき、当社のサステナビリティ経営に関する事項について審議し、取締役会に答申しています。

取締役及び監査役のスキル・マトリックス

氏名	社外	独立	経験・知見								
			企業経営	法務・リスク マネジメント	人材・労務	財務・ ファイナンス	IT・ デジタル	営業・ マーケティング	グローバル 経験	新規事業	
藤原 信幸			●						●	●	●
藤原 徳也			●						●	●	●
井関 義徳				●	●	●	●				
京極 武			●		●				●	●	●
田村 純宏									●	●	●
小岩 渉			●						●	●	●
大矢 和子	●	●	●	●	●				●		●
山下 真実	●	●	●	●					●		●
草島 智咲	●	●	●					●			
河口 仁典	●		●				●	●			●
杉本 茂次	●	●		●			●				
岡本 紫苑	●	●		●			●			●	
野口 克義							●				

※上記の一覧は役員の保有する経験や知見のすべてを表したのではなく、主なものに印を付けています。

ガバナンス

社外役員の独立性判断基準

当社は、独立社外取締役（候補を含む）について、各独立性要件を定め、選任の条件としています。なお、独立社外取

締役は、各独立性要件を就任後も維持し、主要な役職に就任した場合は、本独立性要件に基づき取締役会において独立性について検証しています。

独立役員の選任理由及び取締役会等の出席状況

社外取締役	選任理由	出席回数(2022年度)
大矢取締役	世界各国に事業展開する企業の経営者や監査役を務めるなどグローバルな企業経営における豊富な経験と高い見識に基づき、当社の経営に関する重要な事項について、積極的な意見・提言を行っていることから、社外取締役に選任しております。	取締役会 17回/17回
山下取締役	留学や米系投資銀行での経験から、国際ビジネスへの理解力、国内外の情報分析力も高く、当社が今後成長していくために不可欠な海外展開や新規事業について、高度な指導や助言をいただけるものと考え、社外取締役に選任しております。	取締役会 14回/14回 *2022年5月より社外取締役に就任
草島取締役	長年にわたり企業でIT関連業務を担当しており、その後、独立系ITコンサルタントとして起業し、当社が今後成長していくために不可欠なDXの推進やオンライン分野の事業拡大について、高度な指導や助言をいただけるものと考え、社外取締役に選任しております。	*2023年5月より社外取締役に就任
杉本監査役	公認会計士として監査法人において長年にわたり会計監査業務に携わり、会計監査における豊富な経験と幅広い見識を生かし、経営全般における監督と有効な助言をいただけるものと考え、社外監査役に選任しております。	取締役会 17回/17回 監査役会 14回/14回
岡本監査役	日本及び米国の弁護士資格を有し、M&A・企業再編及び会社法務を中心に国内外の案件に従事しており、豊富な経験と幅広い見識を生かし、経営全般における監督と有効な助言をいただけるものと考え、社外監査役に選任しております。	取締役会 14回/14回 監査役会 11回/11回

取締役の実効性評価

当社は、取締役会の実効性について、毎年分析と評価を実施しています。

取締役会の実効性評価プロセスの概要

(1) 当社取締役会において、取締役会の実効性を評価するうえで必要と考えられる評価のカテゴリーを設定し、取締役及び監査役にアンケートを実施しました。

アンケートにおける評価カテゴリー

- ① 取締役会の構成について
- ② 取締役会の運営について
- ③ 独立社外役員に対する情報提供について

- (2) 左記アンケートによる各取締役会及び監査役の評価をもとに、取締役会事務局がその結果をまとめました。
- (3) これらに基づき、各課題に対する討議を実施しました。

取締役会の実効性評価の結果

各カテゴリーにおいて中位点を上回る結果となりました。取締役会の構成について改善が見られましたが、戦略的な事案の審議や審議時間の十分な確保、子会社リスク情報や経営情報の充実等の課題があるものと評価しました。

取締役会の今後の取り組み

取締役会の実効性評価により認識された各課題をもとに取締役会の実効性をさらに向上させるために、今後以下の事項に取り組んでいきます。

- (1) 戦略的事案の審議の充実
- (2) 議案に対するリスクの深堀や精査の実施
- (3) 子会社に関するリスク・コンプライアンスについて適切な時期での情報の提供
- (4) 子会社経営状況の情報の充実
- (5) 社外取締役・社外監査役とのコミュニケーションの充実

役員報酬

当社の取締役の報酬は、社外取締役が委員長かつ過半数を占める指名・報酬諮問委員会で協議のうえ取締役会に答申することにより、プロセスの客観性・透明性の高いものとしています。

当社の取締役の報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針は取締役会において決議しています。指名・報酬諮問委員会は、取締役の業績評価の方針並びに業績評価及び基本・業績報酬の支給水準の妥当性を協議し取締役会に答申しています。取締役会はこれに基づき、基本・業績報酬の支給について協議し、各取締役の報酬額については代表取締役社長に委任しています。委任権限の内容は、各取締役の基本報酬の額及び担当事業等の業績による業績報酬の額としています。

取締役のトレーニング

当社は、取締役及び監査役がその役割と責務を果たすため、コンプライアンスやガバナンス等に関する必要なトレーニングや研修の機会を継続的に提供しています。2022年度は、危機管理広報のセミナーを常勤取締役が受講し、その他に人権研修、コンプライアンス研修を実施しています。また、社外取締役及び社外監査役に対しては、就任時には店舗視察を行うなどの機会を提供し、当社事業の理解を深めていただくとともに、就任後も事業に関する知識など必要な情報提供を継続しています。

後継者計画

当社は、代表取締役社長を含めた取締役、及び監査役の後継者計画を指名・報酬諮問委員会の審議を経て、取締役会で審議を行い決定しています。そして、後継者として期待される人材については、イオングループの経営者育成プログラム等へ派遣するとともに、2020年に新設した「イオンファンタジートップセミナー」という自社の経営者育成プログラムに推薦することで、育成スピードを加速させていきます。

株主・投資家との対話

当社では、「株主との建設的な対話に関する基本方針」を定め、IRを担当する部門を窓口として、株主の皆さまと建設的な対話を促進する体制を整備しています。

2022年度IRミーティング件数: 166件(前年127件)

株主との建設的な対話に関する基本方針

- (1) 株主を含む投資家との良好な関係を構築するため、IR活動を通じて建設的な対話を積極的に行います。
- (2) 株主との対話は、IRを担当する部門が中心となり、財務経理部門、総務部門等と有機的な連携を図り、建設的な対話の実現に努めます。
- (3) 株主から個別面談の要望があった場合、当社にとって持続的成長と中長期的な企業価値の向上に資するという観点で、対話がなされると判断した場合に、個別の面談に応じます。
- (4) 株主や投資家向けに年2回の定期的な決算説明会を開催するとともに、必要に応じてスモールミーティング等による説明の機会を設けます。
- (5) 決算説明会の説明資料等は、当社のホームページにて公表します。
- (6) 株主や投資家との対話を通じて得られたご意見等については、取締役会や経営会議で報告・討議を行い、株主や投資家との対話に反映するように努めます。
- (7) 株主との対話に当たっては、未公表の重要事実の取り扱いについて、株主間の平等を図ることを基本とし、金融商品取引法等の関連法案を遵守し、インサイダー情報に抵触しないよう「内部情報管理及び内部者取引規制に関する規程」に基づき、情報管理を行います。

ガバナンス

コンプライアンス・リスクマネジメント

コンプライアンス

2022年度は、取締役兼常務執行役員管理統括兼リスクマネジメント担当を委員長とするコンプライアンス分科会を6回開催し、労働基準法や公正取引・風適法など法令遵守のための施策や活動内容及びその結果を確認のうえ、今後の改善に向けた活動の検討を行いました。また、コンプライアンス経営を重視したセミナーを毎年行い、諸法令に関する教育を継続的に実施することで、コンプライアンスに対する活動の周知徹底を行っています。

リスクマネジメント

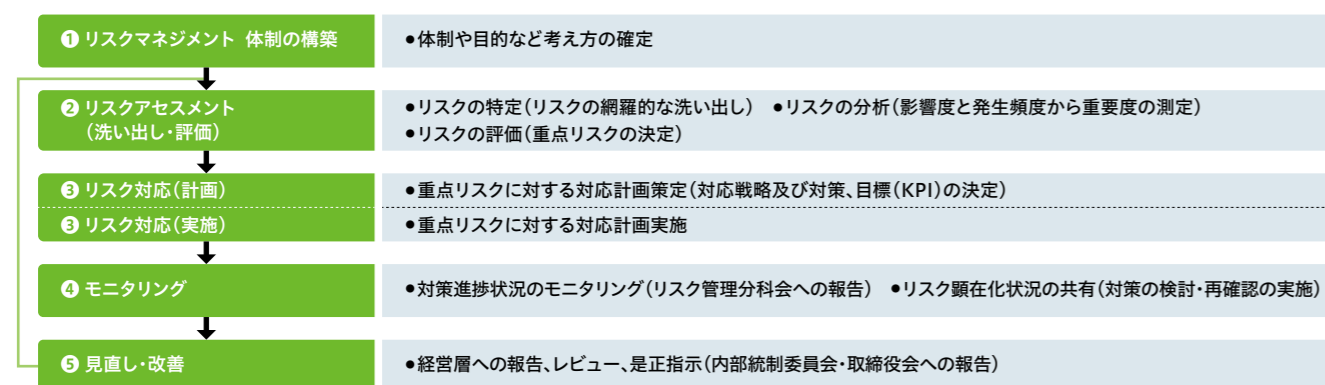
リスク管理について

当社は、「発生する可能性のあるリスクに対しての予防」を重視しています。全社としてリスクによる影響の程度を予見・分析し、特に重要なリスクに対しては先行して対策を講じています。リスクマネジメントプロセスを構築し、リスク管理分科会等で定期的に実施するリスク対策のモニタリング結果をもとに、経営層への報告・レビューを実施しています。

リスクマネジメントプロセス

リスクマネジメントにおいては、PDCAサイクルにより全社を取り巻くリスクを網羅的に把握し、重要なリスクを決定しています。重要なリスク対応(対策)に経営資源を優先的に配分するとともに、対策の進捗はリスク管理分科会にて定期的にモニタリングしています。リスクが顕在化した場合は状況を共有し、対策の実施・再確認を行っています。

リスクマネジメントのプロセス



リスク管理分科会の活動状況

2022年度は、取締役兼常務執行役員管理統括兼リスクマネジメント担当を委員長とするリスク管理分科会を6回開催しました。国内・中国・アセアンにおけるリスクを評価したうえで、重点的に対策すべき項目を国内24項目、中国3項目、アセアン14項目設定しました。それらの対策の進捗状況の確認及び新たな対策の検討を行い、リスクの低減につとめました。重点リスクについてはKPIを設定し、各リスク項目は「評価点」で評価し、期首と期末の「評価点」によりリスクの低下を確認しています。

情報セキュリティの強化

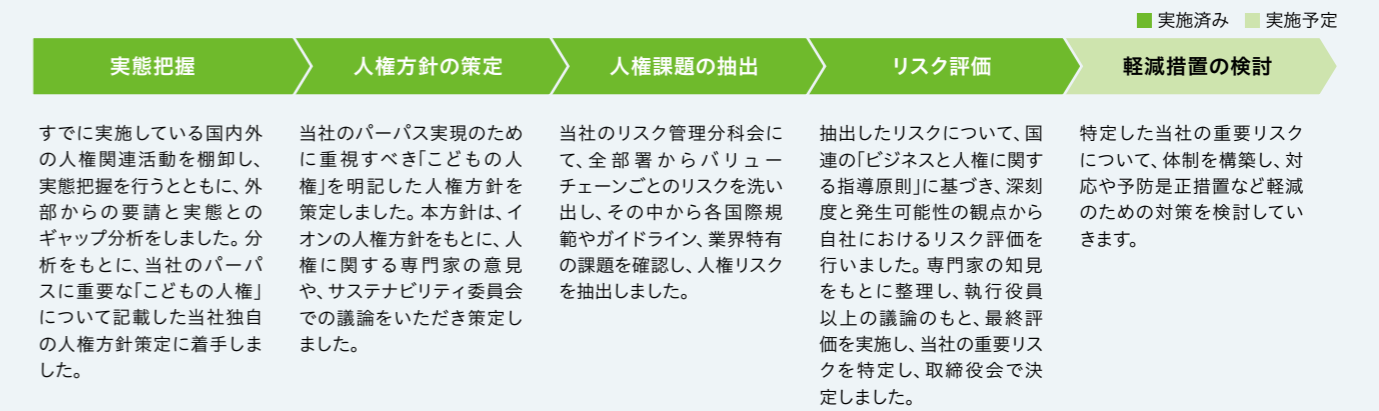
当社では、イオングループ情報セキュリティ基準へ準拠することを基本とし、エンドポイントやネットワーク境界のセキュリティを強化しています。2022年度は、従来の対策をすり抜けてくる高度なサイバー攻撃に対応するため、生体認証(顔認証)とMDR(脅威検知・対処)を導入しました。生体認証では、マルチデバイスのカメラに対応し、画像と照合することで、第三者によるなりすましを防止しています。MDRでは、サイバーセキュリティの専門家によるリアルタイム監視と解析を行い、高度なサイバー攻撃の兆候を瞬時に検知・把握し、即時防御を行うしくみを構築しています。

Focus: 人権デュー・ディリジェンスの実施

当社は「こどもたちの夢を育み、“えがお”あふれる世界をつくる。」というパーパスを掲げ、このパーパスのもと事業活動を行っています。当社が持続的かつグローバルに事業活動を行っていくためには、持続可能な開発目標(SDGs)の達成へ貢献し、「ビジネスと人権」への取り組み、特に「こどもの人権の尊重」は重要なものであると位置付けています。2023年7月、当社は「イオンファンタジーの人権基本方針」を制定しました。今後、本方針をもとに人権デュー・ディリジェンスを実施し、人権が尊重される社会の実現を目指します。なお、当社ではステークホルダーの利益を守るためのガバナンス強化の基盤として、ステークホルダーの人権が尊重される社会づくりが必要であると考えているため、人権尊重の取り組みをガバナンスの一環として位置付け取り組みます。

▶ **イオンファンタジーの人権基本方針** <https://www.fantasy.co.jp/company/sustainability/humanrights/>

人権デュー・ディリジェンスの実施状況



リスク評価結果(国内)

当社が特定したリスク(特別な対応が必要なものは、以下6項目にしました。

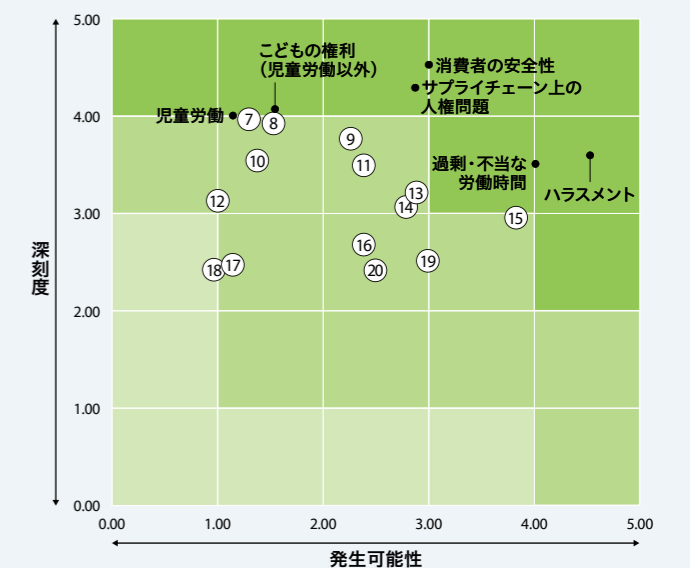
- ①消費者の安全性 ②サプライチェーン上の人権問題
- ③こどもの権利(児童労働以外) ④児童労働
- ⑤ハラスメント ⑥過剰・不当な労働時間

※海外におけるリスク評価は、2023年度下期以降に実施予定

その他のリスク

- ⑦テクノロジー・AIに関する人権問題 ⑧強制労働
- ⑨プライバシーの権利 ⑩環境・気候変動に関する人権問題
- ⑪知的財産権 ⑫先住民族・地域住民の権利 ⑬差別
- ⑭ジェンダーに関する人権問題 ⑮労働安全衛生
- ⑯外国人労働者の権利 ⑰結社の自由・団体交渉権
- ⑱社会保障を受ける権利 ⑲賃金の不足・未払、生活賃金
- ⑳賄賂・腐敗

リスクマッピング



役員一覧 (2023年5月18日付)

取締役



藤原 信幸
取締役会長

2004年 5月 当社入社
2012年 1月 永旺幻想(北京)児童遊楽有限公司(現永旺幻想(中国)児童遊楽有限公司)董事総経理
2013年 1月 同社董事長総経理
2014年 1月 同社董事長
2015年 9月 当社中国事業責任者
2017年 5月 当社取締役
2018年 5月 当社代表取締役社長
2021年 3月 イオン株式会社サービス・専門店担当責任者
2021年 5月 当社代表取締役会長
2021年 5月 株式会社メガスポーツ取締役
2021年 5月 株式会社ジーフット取締役
2021年 5月 株式会社コックス取締役
2022年 5月 当社取締役
2022年 5月 イオンエンターテイメント株式会社取締役会長
2023年 3月 イオン株式会社サービス担当責任者(現任)
2023年 3月 イオンエンターテイメント株式会社代表取締役社長(現任)
2023年 5月 当社取締役会長(現任)
2023年 5月 株式会社イオンイーハート取締役(現任)

重要な兼職の状況
イオン株式会社サービス担当責任者
イオンエンターテイメント株式会社代表取締役社長
株式会社イオンイーハート取締役
所有する当社の株式数 4,900株



井関 義徳
取締役兼常務執行役員
管理統括 兼
リスクマネジメント担当

1990年 4月 株式会社ダイエー入社
1995年 4月 株式会社ダイエーレジャーランド(現当社)入社
2006年 9月 株式会社ファンフィールド(現当社)経営管理部長
2014年 9月 同社経営企画室部長
2015年 6月 当社社長室室長代行
2016年 3月 当社広報・IR室室長
2017年 3月 当社財務・管理本部長代行
2017年 9月 当社財務・管理本部長
2018年 3月 当社財務本部長
2019年 5月 当社取締役
2021年 5月 当社常務取締役管理統括兼財務本部長兼リスクマネジメント担当
2022年 3月 当社常務取締役管理統括兼リスクマネジメント担当
2022年 5月 当社取締役兼常務執行役員管理統括兼リスクマネジメント担当(現任)

重要な兼職の状況 なし
所有する当社の株式数 - 株



田村 純宏
取締役兼執行役員
商品・開発統括 兼
開発本部 本部長

1993年12月 ジャスコ株式会社(現イオン株式会社)入社
2008年 3月 当社商品本部景品グループチーフマネジャー
2009年 3月 当社商品本部プライズグループチーフマネジャー
2011年 2月 当社西日本事業本部長
2012年 4月 当社西日本営業本部長
2012年 5月 当社取締役(現任)
2013年12月 当社西日本営業本部長兼新規事業開発本部長
2014年 5月 当社営業統括兼新規事業開発本部長
2014年 9月 当社営業統括
2015年 5月 当社西日本営業本部長
2015年 9月 当社営業企画本部長
2016年 5月 当社営業統括
2017年 5月 当社開発本部長
2020年 3月 当社グローバル開発本部長
2021年 3月 当社開発本部長
2022年 3月 当社商品・開発統括兼開発本部長
2022年 5月 当社執行役員商品・開発統括兼開発本部長(現任)

重要な兼職の状況 なし
所有する当社の株式数 6,700株



藤原 徳也
代表取締役社長

2000年 3月 当社入社
2008年 3月 当社商品本部機械グループチーフマネジャー
2009年 3月 当社商品本部メダルグループチーフマネジャー
2010年12月 当社商品本部長代行
2011年 9月 当社商品本部長
2013年 3月 当社商品開発本部長
2013年 5月 当社取締役
2017年 3月 当社グローバル商品・新規事業統括
2017年 5月 当社常務取締役
2020年 3月 当社国内事業責任者兼アミューズメント事業本部長
2021年 3月 当社国内事業責任者
2021年 5月 当社代表取締役社長(現任)
2023年 5月 イオンエンターテイメント株式会社取締役(現任)

重要な兼職の状況
イオンエンターテイメント株式会社取締役
所有する当社の株式数 6,500株



京極 武
取締役兼常務執行役員
営業統括

1994年 4月 株式会社マイカル(現イオンリアルティ株式会社)入社
1997年 9月 株式会社マイカルクリエイト(現当社)入社
2012年 4月 当社人事グループゼネラルマネジャー
2014年 5月 AEON FANTASY GROUP PHILIPPINES, INC.代表取締役社長
2018年 6月 当社人事本部長
2019年 5月 当社取締役人事本部長兼ダイバーシティ推進担当
2021年 3月 当社取締役人事総務本部長兼ダイバーシティ担当
2021年 5月 当社常務取締役国内事業責任者
2022年 3月 当社常務取締役営業統括
2022年 5月 当社取締役兼常務執行役員営業統括(現任)
2023年 5月 イオンカルチャー株式会社取締役(現任)

重要な兼職の状況
イオンカルチャー株式会社取締役
所有する当社の株式数 1,800株



小岩 渉
取締役兼執行役員
海外事業統括 兼
エデュテイメント事業
開発本部 本部長

2003年 3月 当社入社
2012年 2月 当社業態開発グループゼネラルマネジャー
2013年 5月 当社グローバル事業推進本部長代行
2014年 8月 当社新規事業開発本部長代行
2016年 3月 当社アセアン事業責任者兼インドアプレイグラウンド事業部長
2016年 4月 AEON Fantasy (Thailand) Co., Ltd.取締役(現任)
2016年 4月 PT. AEON FANTASY INDONESIA取締役(現任)
2016年 4月 AEON FANTASY GROUP PHILIPPINES, INC.取締役(現任)
2016年 6月 AEON FANTASY (MALAYSIA) SDN. BHD.取締役会長(現任)
2017年 5月 当社取締役(現任)
2019年 3月 当社海外事業本部長兼インドアプレイグラウンド事業部長
2020年 3月 当社アセアン事業責任者
2022年 3月 当社アセアン事業責任者兼エデュテイメント事業開発本部長
2022年 5月 当社執行役員海外事業統括兼エデュテイメント事業開発本部長(現任)

重要な兼職の状況
AEON FANTASY (MALAYSIA) SDN. BHD. 取締役会長
AEON Fantasy (Thailand) Co., Ltd. 取締役
PT. AEON FANTASY INDONESIA 取締役
AEON FANTASY GROUP PHILIPPINES, INC. 取締役
所有する当社の株式数 1,300株



大矢 和子
取締役(社外)(独立役員)

1973年 4月 株式会社資生堂入社
2001年 6月 同社執行役員
2007年 6月 同社常勤監査役
2010年 6月 東京電力株式会社社外監査役
2011年 5月 公益財団法人資生堂社会福祉事業財団理事長
2011年 6月 株式会社資生堂顧問
2011年12月 株式会社エムティアイ社外監査役
2013年 5月 当社社外取締役(現任)
2013年 7月 朝日生命保険相互会社社外取締役(現任)
2015年 6月 株式会社ミライト社外監査役
2015年10月 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構監事

重要な兼職の状況
朝日生命保険相互会社社外取締役
所有する当社の株式数 - 株



草島 智咲
取締役(社外)(独立役員)

1983年 4月 株式会社セガ・エンタープライゼス(現株式会社セガ)入社
2011年 1月 同社コーポレート本部情報システム部長
2018年 9月 株式会社ウィズソフィア代表取締役(現任)
2019年 6月 シュッピン株式会社社外取締役(現任)
2023年 5月 当社社外取締役(現任)

重要な兼職の状況
株式会社ウィズソフィア代表取締役
シュッピン株式会社社外取締役
所有する当社の株式数 - 株

監査役



河口 仁典
常勤監査役(社外)

2002年 9月 株式会社イオンフォレスト入社
2002年 9月 同社総合企画室長
2007年12月 株式会社イオンボディ代表取締役社長
2009年 3月 株式会社イオンフォレスト総合企画室長兼CRM部長
2009年 4月 同社管理本部副本部長
2011年 4月 同社取締役管理本部長
2013年 5月 ローラアシュレイジャパン株式会社取締役管理本部長兼海外事業担当
2018年 9月 イオン株式会社戦略部
2021年 5月 リフォームスタジオ株式会社取締役経営管理担当
2023年 5月 当社常勤社外監査役(現任)
2023年 5月 イオンエンターテイメント株式会社社外監査役(現任)

重要な兼職の状況
イオンエンターテイメント株式会社社外監査役
所有する当社の株式数 - 株



岡本 紫苑
監査役(社外)(独立役員)

2008年 9月 森・濱田松本法律事務所入所
2013年 9月 Herbert Smith Freehillsロンドン・東京両オフィスにて執務
2015年 4月 三菱商事株式会社法務部出向
2016年 8月 ヤフー株式会社入社
2016年 8月 YJキャピタル株式会社(現Z Venture Capital株式会社)出向
2021年 8月 同社CFO兼General Counsel
2022年 4月 Zホールディングス株式会社出向
2022年 4月 同社財務統括部エンゲージメント・マネジャー(現任)
2022年 5月 当社社外監査役(現任)

重要な兼職の状況
Zホールディングス株式会社エンゲージメント・マネジャー
所有する当社の株式数 - 株



山下 真実
取締役(社外)(独立役員)

2001年 4月 日本電気株式会社入社
2006年 8月 JPモルガン証券株式会社債権営業部クレジツセールス担当
2007年11月 日本リスク・データ・バンク株式会社事業推進部グループマネジャー
2013年12月 株式会社こころく代表取締役(現任)
2017年 2月 一般社団法人Learning Journey理事
2018年 6月 本多通信工業株式会社社外取締役
2022年 5月 当社社外取締役(現任)

重要な兼職の状況
株式会社こころく代表取締役
所有する当社の株式数 - 株



杉本 茂次
監査役(社外)(独立役員)

1974年 4月 等松・青木監査法人(現有限責任監査法人トーマツ)入所
1978年 4月 公認会計士登録
1989年 7月 同監査法人パートナー就任
2015年12月 同監査法人退職
2016年 1月 杉本茂次公認会計士事務所開設
2016年 5月 当社社外監査役(現任)
2016年 6月 株式会社イオン銀行社外監査役(現任)
2016年 6月 日鉄住金物産株式会社(現日鉄物産株式会社)社外監査役(現任)
2020年 6月 大阪製鐵株式会社社外監査役(現任)

重要な兼職の状況
日鉄物産株式会社社外監査役
株式会社イオン銀行社外監査役
大阪製鐵株式会社社外監査役
所有する当社の株式数 - 株



野口 克義
監査役

1991年 4月 ジャスコ株式会社(現イオン株式会社)入社
2010年 5月 同社経理部主計グループマネージャー
2013年 8月 同社連結経理部マネージャー
2018年 4月 同社経理部マネージャー
2022年 3月 同社経理部長(現任)
2023年 5月 当社監査役(現任)

重要な兼職の状況
イオン株式会社経理部長
所有する当社の株式数 - 株

執行役員

池田 宏次郎
中国事業責任者 兼
イオンファンタジー中国 董事長 兼 総経理

塩澤 裕也
戦略本部 本部長

李 爽
人事総務本部 本部長

加藤 達也
財務本部 本部長

社外取締役メッセージ

“リーディングカンパニー”となるためには
実現可能な計画と、その進捗報告が重要。

取締役(社外)(独立役員)

大矢 和子

イオンファンタジーのパーパス「“えがお”あふれる世界の実現」に向けて、当社の取締役が先頭に立って「安全・安心とおもてなし」と「堅固な経営基盤の確立」の両立に向けた事業活動を推進しています。また、取締役会でも法務、災害、人権、財務など多方面からのリスクに備えるため、自身の担当外の案件でも積極的な意見を交換し、経営判断がなされています。

その中で、私は社外取締役に就任して以来、これまでに積み重ねてきた多様な業種の経験を活かし、当社の企業価値を高めるために主にガバナンス面や経営面でのアドバイスをするように心がけています。また、取締役会の場合だけでなく、事前に現場に足を運んでの情報収集や経営会議での争点の確認などにも積極的に取り組んでいます。さらには、新型コロナウイルス感染症の拡大などの厳しい状況下においても、急速な社会変化を予測しつつ、当社が課題として認識しているブランディングの確立や財務基盤の強化を念頭に、効率的な経営が図れるようにアドバイスしています。

新たな中期経営計画の策定にあたっては、地球環境の変化

や急激なAIの発展などを踏まえると、今後はますますこどもの発達に欠かせない五感を駆使する「遊び」と「学び」の重要性がより高まっていくと予測されます。そうした認識のもと、私は取締役会で「当社が“インドアエンターテインメントのリーディングカンパニー”を目指すためには、広範かつ自由な議論を経たうえで、具体的で実現可能な計画の立案と、社内外に向けた中間報告などを行うことを検討すべき」と要請しています。

また、サステナビリティ経営については、当社では社長のもとで有識者も加えた委員会が構成され、取締役会において当社の活動に即した提案が逐次報告されています。今後は、当社のサステナビリティ全体を象徴する活動を社内外に周知していくと同時に、その活動を社員一人ひとりが実行できるよう理解・浸透を図っていくことが重要だと考えています。

IT上のリスクや迅速に取り組むべき施策、
将来を見据えたDXなどを発信していく。

取締役(社外)(独立役員)

草島 智咲

豊富なアセットや人財などにフォーカスした
効果的な取り組みを見出すことを期待したい。

取締役(社外)(独立役員)

山下 真実

社外取締役に就任して1年数カ月が経ちましたが、その間の取締役会においては中長期的な視点での発言・議論が増え、実効性が着実に向上してきていると感じています。その中で、私は取締役会の議案担当者や出席者に気づきを与えられるような“良い質問”をすることを意識しています。さらに今後は、当社の強みである若手人財や女性管理職の多さを活かすための人財戦略なども活発に議論していきたいと考えています。

また、中期経営計画は経営の根幹となるものなので、その内容だけでなくモニタリング機能の実効性も含めて議論することが大切です。次期中期経営計画の策定にあたっては、コンセプトメイキングから具体的施策への落としこみの段階まで、社外取締役も幅広く参画していく予定です。中期経営計画を策定するためには既存事業を研ぎ澄ませていくと同時に、新しい領域にチャレンジするためのリスクを取ることも必要です。しかし、当社のような、こどものための事業を展開する企業にとっては、取るべきではないリスクが間違いなくあり、徹底したリスクマネジメントが重要です。ケガや事故の防止にと

私は2023年5月に社外取締役として、イオンファンタジーに加わりました。そのため当社の経営に参加してまだ日は浅いですが、イオンファンタジーはパーパスのもと、前例にとらわれることなく新規領域に挑戦し続けていると評価しています。

また、取締役会に参加して実感しているのが、こどもたちに“えがお”を届けようとしている会社だからこその風通しのよさや情報開示の姿勢があるほか、会議も毎回、建設的な議論がなされています。加えて、私が接している経営層はじめ、各職場の管理職や従業員の方々も、自律的かつ生き生きと業務に取り組んでいると感じています。

テクノロジーの進化などに伴う昨今の著しい環境変化を踏まえると、現在のこどもたちが大人になる頃には、働き方や余暇の過ごし方などのあらゆる面において、私たちの想像を超える変化が起きていると推測されます。しかし、社会にどのような変化が起きても、「こどもたちの“えがお”」とそれを願う大

どまらず、健康や人権などにも意識を向けていく必要があると考えており、その点も議論していきたいと思っています。

また、企業活動の中核であるサステナビリティについては、活動の方針や方向性などについては取締役会で議論したうえで、サステナビリティ委員会やサステナビリティ倶楽部による推進状況が報告されるという運営が定着してきました。今後は、これらの活動によって得られた知見やデータを経営判断により強く反映していくための方策を検討していくべきです。私は「イオンファンタジーにしか解決できない社会課題は何か？」を突き詰めていった先にこそ、目指すべきサステナビリティ経営が存在するのだろうと思います。当社が有する豊富なアセットや人財などがより効果的に活かされる領域にフォーカスした取り組みを見出してほしいと考えています。

人たちの“えがお”の本質は変わらないはず。そして何より、こどもたちの“えがお”は、社会を“えがお”にします。

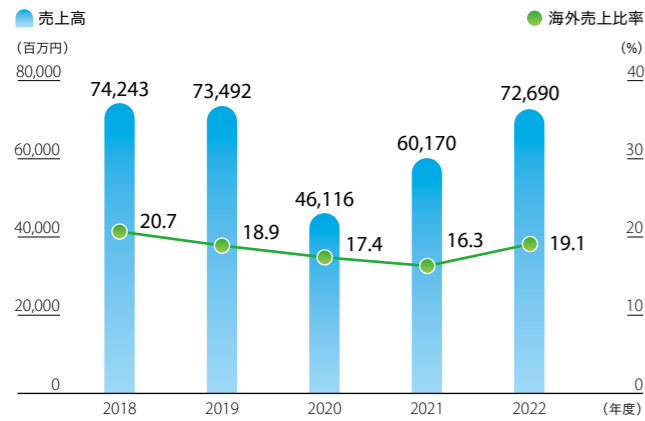
未来の状況や可能性は未知数ですが、未来のこどもたちの“えがお”を想像しつつ、最新のテクノロジーを活用して、現在の課題、一歩先の課題に柔軟な思考で取り組むことがDXにつながります。そうした中で、現在の当社にはIT化やDXに関して手付かずの業務も多いと認識しており、未来の社会と当社の存在意義を念頭に置いた中期計画を立てて、着実に実行していくことが重要だと考えています。

私はIT業界に長く身を置き、当社とはターゲットが異なるものの、アミューズメント企業のIT化に注力してきました。今後も私なりの視点で、既存事業に潜むIT上のリスクや迅速に取り組むべき施策、将来を見据えたDXの取り組みなどについて積極的に意見を発信し、“ファンタジーピープル”としての役割を全うしてまいります。

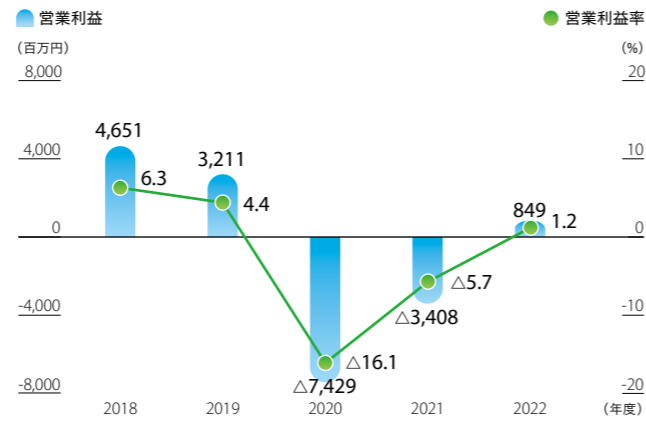
財務・非財務ハイライト

財務ハイライト

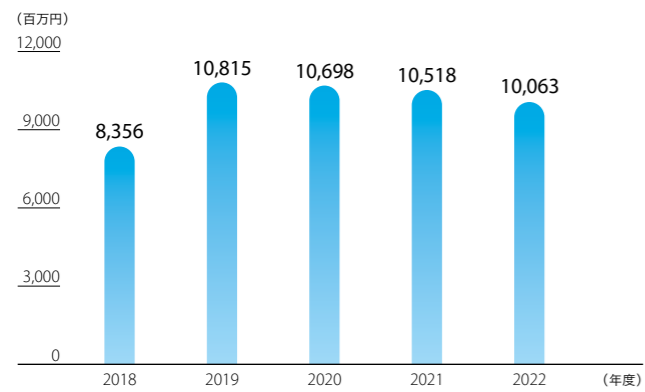
売上高／海外売上比率



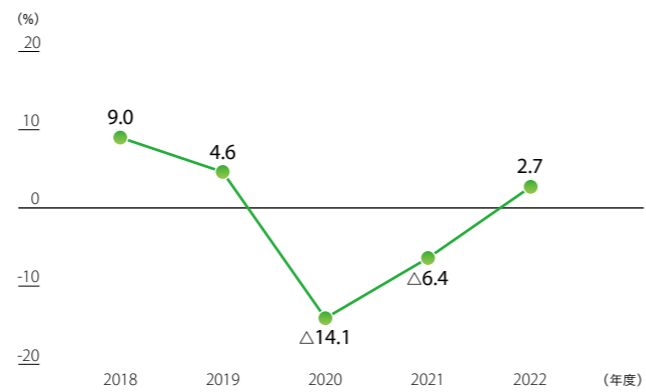
営業利益／営業利益率



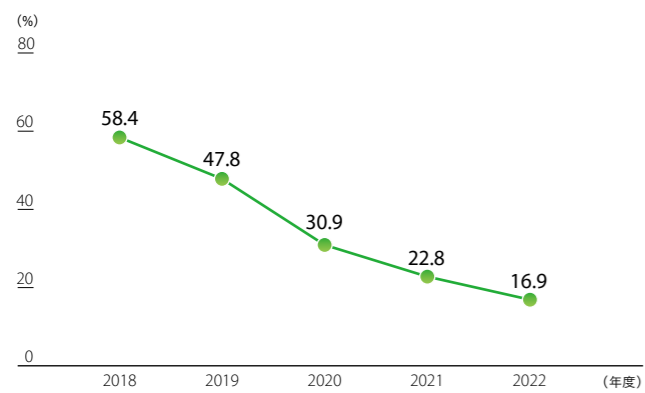
減価償却費



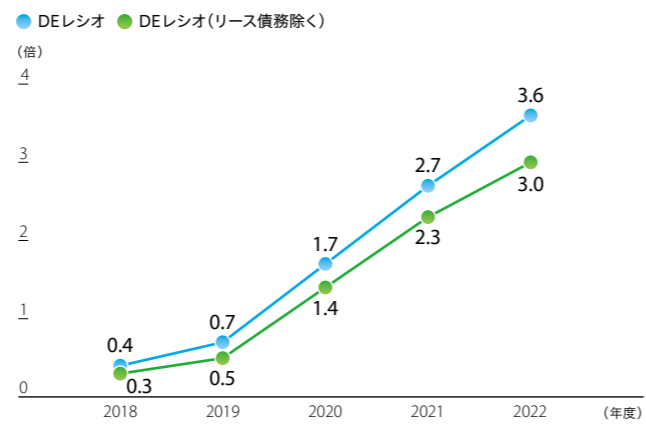
ROA (総資産経常利益率)



自己資本比率

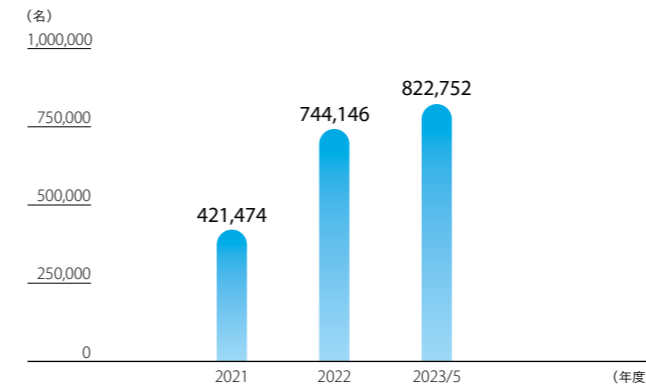


DEレシオ

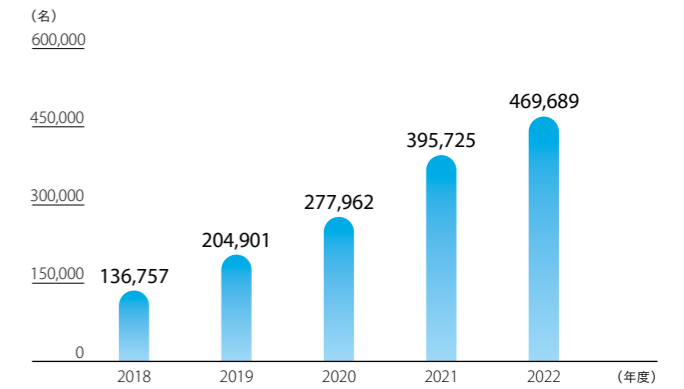


非財務ハイライト

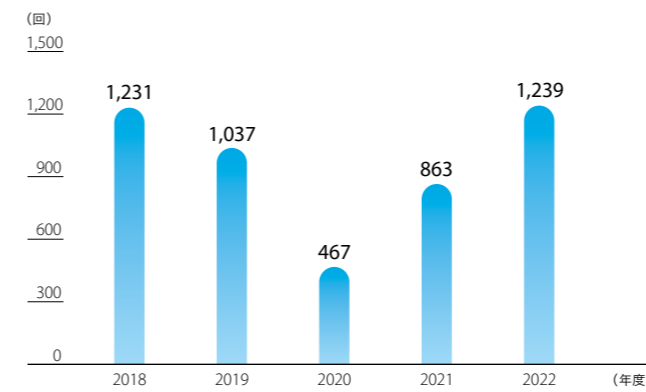
モーリーファンタジーDX累積会員数の推移



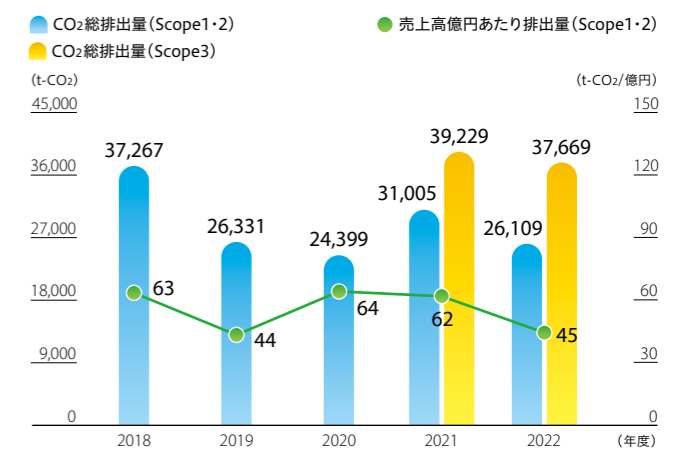
公式X(旧Twitter)フォロワー数の推移



社会福祉施設等の子どもたちの訪問会・招待会の開催回数 (国内・海外)

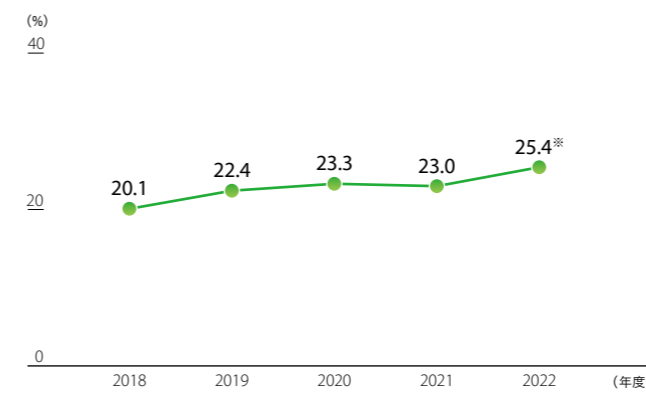


CO₂排出量



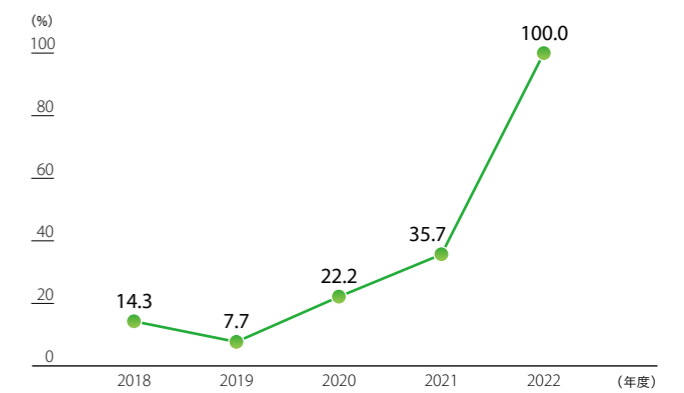
※算定方法変更により2021年度排出量を一部修正しています。

国内女性課長職以上比率



※参考：海外58.7%、連結45.8%

男性育児休暇取得率



連結経営指標等 10年間サマリー

財務情報	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
会計年度(単位:百万円)										
売上高	46,541	46,632	58,831	65,058	72,174	74,243	73,492	46,116	60,170	72,690
セグメント別売上高 (国内事業)	44,083	41,135	49,777	54,557	58,446	58,861	59,637	38,092	50,339	58,797
(中国事業)	1,084	3,531	6,423	7,175	9,040	9,647	7,642	6,895	7,721	4,858
(アセアン事業)	1,373	1,966	2,630	3,325	4,687	5,734	6,212	1,128	2,109	9,034
営業利益又は営業損失(△)	2,536	2,629	2,748	3,769	5,970	4,651	3,211	△7,429	△3,408	849
経常利益又は経常損失(△)	2,646	3,417	2,630	3,498	5,598	4,299	2,387	△7,719	△3,385	1,318
税引等調整前当期純利益又は 税引等調整前当期純損失(△)	2,544	3,013	2,453	3,160	5,080	3,441	652	△11,808	△4,783	△2,049
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△)	1,118	1,338	1,480	1,697	2,986	1,865	△325	△9,277	△4,507	△3,376
減価償却費	5,076	4,803	6,202	6,593	7,206	8,356	10,815	10,698	10,518	10,063
会計年度末(単位:百万円)										
純資産額	20,613	21,608	24,744	25,619	28,369	29,220	27,128	16,922	11,841	8,138
総資産額	27,972	30,041	41,040	43,328	46,928	48,891	55,739	53,961	51,235	46,917
キャッシュフロー(単位:百万円)										
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,674	3,570	8,156	10,349	10,672	9,588	10,271	183	6,176	9,057
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,023	△3,146	△12,571	△7,660	△11,416	△12,069	△10,849	△6,964	△7,091	△4,845
財務活動によるキャッシュ・フロー	△820	△394	4,285	112	△506	1,862	96	8,445	1,395	△4,379
現金及び現金同等物期末残高	3,246	3,369	3,724	6,442	5,132	4,533	4,132	5,718	5,986	6,058
1株当たり情報(単位:円)										
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期純損失(△)(円)	61.64	73.76	76.70	86.18	151.53	94.58	△16.47	△469.51	△228.07	△170.82
1株当たり配当額(円)	30	30	30	31	41	50	50	30	20	10
1株当たり純資産額(円)	1,117.61	1,170.74	1,239.44	1,283.33	1,409.05	1,449.36	1,348.77	844.86	591.51	401.98
財務指標										
売上高営業利益率	5.4%	5.6%	4.7%	5.8%	8.3%	6.3%	4.4%	△16.1%	△5.7%	1.2%
自己資本当期利益率(ROE)	5.6%	6.4%	6.5%	6.8%	11.3%	6.6%	△1.2%	△42.8%	△31.8%	△34.4%
総資産経常利益率(ROA)	9.7%	11.8%	7.4%	8.3%	12.4%	9.0%	4.6%	△14.1%	△6.4%	2.7%
自己資本比率	72.5%	70.7%	59.5%	58.4%	59.2%	58.4%	47.8%	30.9%	22.8%	16.9%
DEレシオ(倍) ※リース債務含む	-	0.0	0.3	0.3	0.3	0.4	0.7	1.7	2.7	3.6
DEレシオ(倍) ※リース債務除く	-	0.0	0.3	0.3	0.3	0.3	0.5	1.4	2.3	3.0
非財務情報										
期末店舗数(店)	412	489	764	799	840	864	870	849	931	1,035
モーリーファンタジー DX (旧モーリーファンタジーファンクラブ)累計会員数(名) ^{※1}	-	-	-	993,589	1,515,534	1,505,639	1,527,830	1,366,500	421,474	744,146
公式X(旧Twitter)フォロワー数(名)	-	-	3,980	10,100	56,367	136,757	204,901	277,962	395,725	469,689
従業員数(名) ^{※2}	4,055	4,482	6,430	7,184	7,767	8,926	7,645	7,518	7,180	7,432
障がい者雇用率(%)	-	1.66	1.51	1.78	2.36	2.48	2.40	2.58	2.86	3.20
社会福祉施設等のこどもたちの訪問会・招待会の開催回数 (国内・海外) ^{※3}	211	207	156	136	470	1,231	1,037	467	863	1,239
ファンタジースマイルデーあそんで募金等による募金額(千円)	1,100	3,515	3,781	1,520	2,051	3,222	3,208	1,041	1,622	3,088
CO ₂ 排出量(Scope1・2)(t-CO ₂)	-	-	-	-	-	37,267	26,331	24,399	31,005	26,109

※1 2021年にスタンプ会員制から、会員デジタル化による新会員制度に移行。
 ※2 従業員数は臨時従業員(8時間換算)を含む。
 ※3 2016年度以前は国内のみの集計。2017年度より、海外での開催数を含む。

会社概要 (2023年8月31日現在)

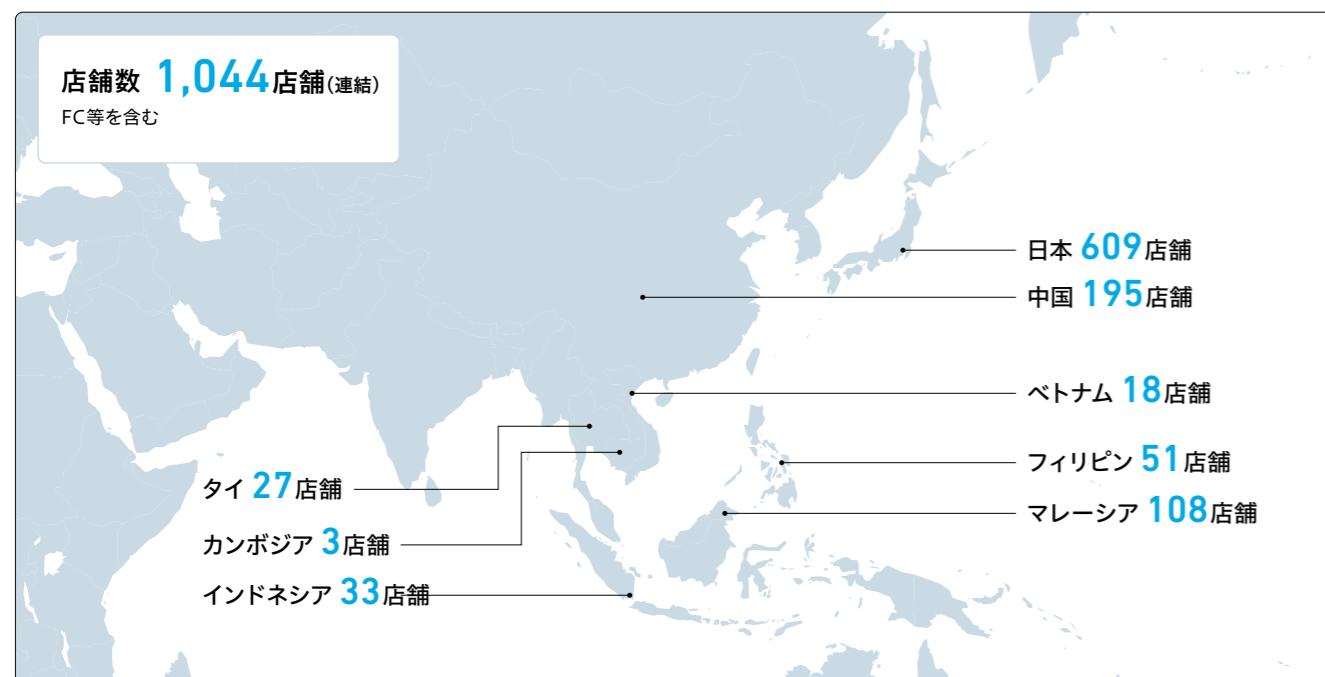
会社概要

商号	株式会社イオンファンタジー
本部事務所	千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目6番
ホームページ	https://www.fantasy.co.jp/company/
設立	1969年10月(実質上の設立1997年2月)
資本金	18億6百万円(2023年2月期)
事業内容	ショッピングセンター内「アミューズメント施設」及び「インドアプレイグラウンド」の運営

連結子会社

永旺幻想(中国)児童遊楽有限公司	中国 北京市
AEON FANTASY (MALAYSIA) SDN. BHD.	マレーシア クアラルンプール
AEON Fantasy (Thailand) Co., Ltd.	タイ バンコク
AEON Fantasy Holdings (Thailand) Co., Ltd.	タイ バンコク
AEON FANTASY GROUP PHILIPPINES, INC.	フィリピン マニラ
PT. AEON FANTASY INDONESIA	インドネシア ジャカルタ
AEON FANTASY VIETNAM CO., LTD.	ベトナム ホーチミン

ネットワーク (2023年2月28日現在)



株式情報 (2023年8月31日現在)

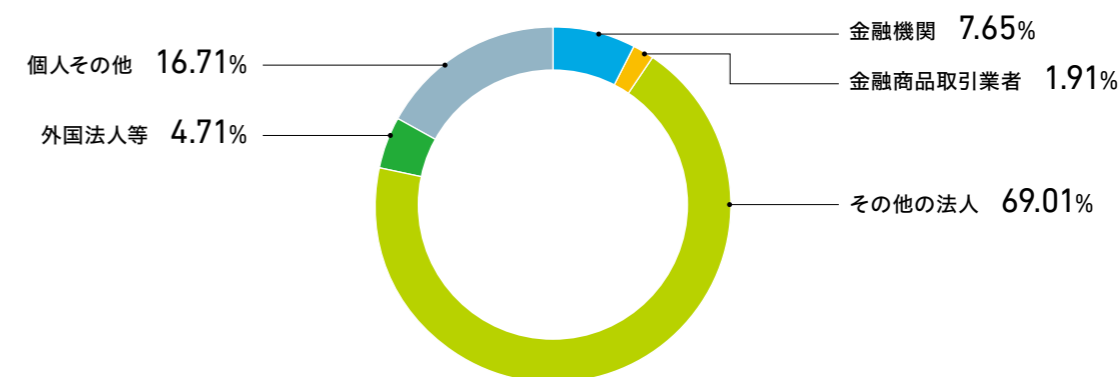
株式状況

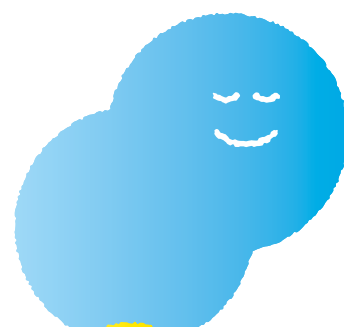
発行可能株式総数	50,000,000株
発行済株式の総数	19,770,725株
株主数	18,630名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
イオン株式会社	13,004	65.77
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	791	4.00
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	606	3.07
GOVERNMENT OF NORWAY	371	1.88
野村證券株式会社	305	1.54
RBC ISB LUX NON RES/DOM RATE-UCITS CLIENTS ACCOUNT-MIG	183	0.93
マックスバリュ西日本株式会社	115	0.58
イオンフィナンシャルサービス株式会社	115	0.58
イオンモール株式会社	115	0.58
BNYM AS AGT/CLTS 10 PERCENT	90	0.46

所有者別株式分布状況





株式会社イオンファンタジー

〒261-0023 千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目6番 エム・ベイポイント幕張 8階
<https://www.fantasy.co.jp/company/>